

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10304		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00. H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	石田 和男				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 〔キーワード： 小論文、読む、書く、話す〕 小論文の書き方についての基本的考え方、そして技術論、そして主題についての構想力の訓練、そのためのグループ・ディスカッション； 聞く、話す、書くことの実践。そのためには普段から本を読む習慣をつけておくことが大切です。そのためには自分の身体をマシンとして機能アップさせることが肝心；呼吸法、発声法、イメージ作成法、フェルトセンス開発・・・そして実際に主題を対象にマシンを動かして自己開発してゆく。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	そして、読み書きから自己表現へ。そして行動できる、実践的主体として活動できるパーソナリティを形成していく。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	論文の書き方	目的、対象、類書			グループワーク	第16回	「情念」	肉体内の血液の運動			グループワーク
第2回	問題の場からトピックへ	時間表の作り方、トピック			グループワーク	第17回	「神話の終わり」	健康の真実をををする			グループワーク
第3回	資料探し	仮読み、カード目録で探す			グループワーク	第18回	「想像力について」	肉体から切り離された魂			グループワーク
第4回	研究の準備	参考図書と文献カード			グループワーク	第19回	「精神の病」	不幸の重荷は幸福な人に			グループワーク
第5回	読みと整理	研究カードの作り方			グループワーク	第20回	「気で病む男」	首をすくめ、肺の空気を入れ替える			グループワーク
第6回	確実なデータ作り	内容、目的、起源、ドキュメント			グループワーク	第21回	「微笑」	自分の筋肉を解きほぐす			グループワーク
第7回	書く；アウトライン、文章化、下書き	幹線のわかる構造			グループワーク	第22回	「惨劇」	死んだ人は治癒している			グループワーク
第8回	清書へ	注と文献表、総点検、出来上がり			グループワーク	第23回	「死について」	人間は死を待つことができない			グループワーク
第9回	小論文の書き方	小論文のアイデア整理			グループワーク	第24回	「態度」	緊張を解くと生命の機能が増す			グループワーク
第10回	読む	理解する読み方、読む技術			グループワーク	第25回	「体操」	咳止めドロップの効用			グループワーク
第11回	話す	文法、論理、レトリック			グループワーク	第26回	「祈り」	当然の結果の不条理な説明			グループワーク
第12回	アラン『幸福論』を読む；「名馬ブケファロス」	苛立ちの原因			グループワーク	第27回	「予言的な魂」	半ば目を覚まし、夢を作り直す			グループワーク
第13回	「苛立ち」	肉体の運動に従うこと			グループワーク	第28回	「我々の未来」	底荷を捨てて風向きに従え			グループワーク
第14回	「悲しいマリー」	血球の増減が原因			グループワーク	第29回	「楡の木」	足元を見て、行動せよ			グループワーク
第15回	「ふさぎの虫」	我慢が肝心			グループワーク	第30回	「心づかい」	決して顔色が悪いと言わぬこと			グループワーク
評価 方法 及び 評価 基準	平常評価（ディベートの勝敗は評価の対象にはしない。むしろ、毎回、どういう姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような判定を行うかを重視する。）										
課題等	アーキュレーションの練習を通じて、発音の自己開発ができるようになること。はっきり相手に音を伝える学びをする。										
事前事後 学修	事前に、自分で発音のイメージトレーニングをすること。本をたくさん読み、感想文を書くこと。授業後に何を学んだかノートに記しておくこと、1ヶ月ごとに提出すること。										
教材 教科書 参考書	『論文の書き方』澤田昭夫、講談社学術文庫。ISBN:4-06-158153-8 『幸福論』アラン、白水Uブックス。ISBN:978-4-560-72098-1										
留意点	演習のため、学生の主体的な参加が大切。みんなで作る授業。たのしく一年間一緒に学びましょう。										

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10305		単位数 時間	4単位	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 年間を通じて、いわゆる「ディベート」を行う。すなわち、一定のテーマについて、例えば、賛成/反対といった立場に分かれるなどして、互いの主張を展開しつつ、相手を論破することを目指す。テーマの選定、司会進行などは、基本的に、履修者が行う。また、テーマの選定のために、図書館の利用や、インターネット等の活用も、適宜行っていく。さらに、ディベートの判定・評価も学生が行う。その場合、自分としてどちらの立場に賛成か・反対かではなく、どちらのディベーターの方がより説得力あるディベートを展開したかで判定する。また、そのように判定するについて、どういうところに説得力を見出したかをコメントすることも併せて求める。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	ディベートを通して、「倫理的に考え、丹念に調べ、しっかりと発表する」力の修得を図る。議論を恐れず、むしろ議論に親しみ、楽しめる位習熟すれば、たとえば、将来社会福祉の専門職として、援助過程において他専門職との間でも、有意義に議論を重ねることも大いに期待できよう。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ①		第16回	ディベート	ディベートを行う					
第2回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ②		第17回	ディベート	ディベートを行う					
第3回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ③		第18回	ディベート	ディベートを行う					
第4回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ④		第19回	ディベート	ディベートを行う					
第5回	ディベートに向けて	ディベートの意義を学ぶ⑤		第20回	ディベート	ディベートを行う					
第6回	ディベートに向けて	模擬ディベート		第21回	ディベート	ディベートを行う					
第7回	ディベートに向けて	模擬ディベート		第22回	ディベート	ディベートを行う					
第8回	ディベートに向けて	資料・情報の収集		第23回	ディベート	ディベートを行う					
第9回	ディベートに向けて	資料・情報の収集		第24回	ディベート	ディベートを行う					
第10回	ディベート	テーマの設定		第25回	ディベート	ディベートを行う					
第11回	ディベート	ディベートを行う		第26回	ディベート	ディベートを行う					
第12回	ディベート	ディベートを振り返る		第27回	ディベート	ディベートを行う					
第13回	ディベート	テーマの設定		第28回	ディベート	ディベートを行う					
第14回	ディベート	ディベートを行う		第29回	ディベート	ディベートを行う					
第15回	ディベート	ディベートを振り返る		第30回	ディベート	ディベートを行う					
評価 方法 及び 評価 基準	例年と同様に、ディベートの勝敗は評価の対象とはしない。むしろ、毎回、どういう姿勢で取り組み、ディベーターとしてどのような議論や質問を行い、あるいは、判定者としてどのような観点で判定を行ったかといったことを評価の対象とする。										
課題等	特になし										
事前事 後学修	事前学修に関しては、ディベーターとしてディベートに向けた準備を綿密に行うこと。事後学修に関しては、ディベートで得られた知見をしっかりと理解できるようにすること。										
教材 教科書 参考書	特に指定しない。										
留意点	どんなに熱心を持っていようと、ディベートの勝敗等に感情的になりやすい人には履修をすすめない。										

科目名	基礎演習 I	科目コード	W10306		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-BFBE1-00. H							
区分	基礎教育科目 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 前期：岩波新書程度の文献を読み、書物を読むことに慣れ、レジュメを作成して本の内容を説明することが中心となる。 後期：前期に続いて、文献を読む。図書館で文献を検索し、論文の検索方法を身につける。ディベートを行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している									
	到達 目標									
学問に取り組むうえで、最低限必要となる基礎的な力を身につける。曖昧なネット情報のみで発言する学生がいるが、科学的根拠のある情報を合理的に入手し、それを読み解き、人に伝えたり、意見を交換することが出来るようになること。										
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ゼミ開き	自己紹介・ゼミの概要説明		第16回	読み書き報告①	岩波新書を読んで報告⑩	サブゼミ・プロゼミの運営			
第2回	読み書き	文献の読み方およびレジュメの書き方		第17回	読み書き報告②	岩波新書を読んで報告⑪	サブゼミ・プロゼミの運営			
第3回	初めての報告	岩波ジュニア新書を読んで報告①	報告	第18回	読み書き報告③	岩波新書を読んで報告⑫	サブゼミ・プロゼミの運営			
第4回	報告に慣れよう	岩波ジュニア新書を読んで報告②	報告	第19回	読み書き報告④	岩波新書を読んで報告⑬	サブゼミ・プロゼミの運営			
第5回	判りやすいレジュメ	岩波ジュニア新書を読んで報告③	報告	第20回	読み書き報告⑤	岩波新書を読んで報告⑭	サブゼミ・プロゼミの運営			
第6回	図書館利用の方法①	図書館探検	文献検索	第21回	読み書き報告⑥	岩波新書を読んで報告⑮	サブゼミ・プロゼミの運営			
第7回	奥付とは	岩波ジュニア新書を読んで報告④	報告	第22回	図書館利用の方法③	文献検索自由自在	文献検索			
第8回	章・節・項	岩波ジュニア新書を読んで報告⑤	報告	第23回	ディベートとは	ディベートの基礎知識				
第9回	単行本とは	岩波ジュニア新書を読んで報告⑥	報告	第24回	ディベートのテーマ	ディベートのテーマを考える				
第10回	雑誌論文とは	岩波ジュニア新書を読んで報告⑦	報告	第25回	ディベート、その前に	科学的根拠のある意見とは				
第11回	目次を見よう	岩波ジュニア新書を読んで報告⑧	報告	第26回	図書館利用の方法④	文献検索実行	文献検索			
第12回	あとがきに注目	岩波ジュニア新書を読んで報告⑨	報告	第27回	ディベートに臨む	ディベートで対戦①	ディベート			
第13回	図書館利用の方法②	図書館検索をしてみよう	文献検索	第28回	再びディベート	ディベートで対戦②	ディベート			
第14回	前期レポート執筆①	書評とは何か		第29回	ディベートで書く	議論した内容を文字にする	執筆			
第15回	前期レポート執筆②	書評を書く		第30回	一年間のまとめ	ゼミの成果を確認する				
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点70%、レポート（上記到達目標に照らして評価する）30%									
課題等	毎回、全員同じ範囲を読んで、レジュメを提出すること。範囲は、その都度指定する。									
事前事後 学修	一般的に大学における学習は、文献を読むことを前提としている。そのことから、岩波新書を毎日1頁程度読むことになる。読んでレジュメを作成すること。またその際、読めない漢字は、漢和辞典で調べ、判らない意味の言葉は、国語辞典を中心に調べて、テキストに書き込んでおくこと。									
教材 教科書 参考書	森 靖雄 (2014) 『シリーズ 大学生の学びをつくる 大学生の学習テクニック』 大月書店、ISBN:978-4-272-4132、塚田祐之 (2018) 『その情報、本当ですか？ーネット時代のニュースの読み解き方』 岩波ジュニア新書、ISBN:978-4-500866-7									
留意点	辞書類を必ず持参すること。電子辞書可（ただし、充電しておく、電池のスペアを持ってこることなど、不測の事態に対処できるようにしておくこと）。岩波新書については、別途指示をする。									

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10307		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	棟方 達也				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>[授業の主旨]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の所属先として、ゼミ生どうしのコミュニケーションや親睦を重視する。</li> <li>・演習としては、書籍、マスメディア、WEB等、様々な情報源からスポーツに関する題材を取り上げ、課題を見出し、考察する。[情報リテラシー教育、ICT活用]</li> <li>・ppt.を使用した報告、発表の仕方を実践的に学ぶ。[プレゼンテーション]</li> <li>・ゼミ伝統の「岩木山登山」は必須課題。[実習、フィールドワーク]</li> </ul>										
	<p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している</p>										
到達 目標	スポーツや身体に関する個別研究 [各自で研究課題を設定し、適切な方法で調べまたは実践し結論を出す。] をレポートにまとめ、ppt. を使用して発表する。[ディスカッション、プレゼンテーション]										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備 考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備 考
第1回	顔合わせ	ガイダンス、自己紹介、スケジュールの確認等				第16回	岩木山登山報告	報告書作成と振り返り(行動記録、写真等を整理し、報告書にまとめておくこと)			
第2回	親睦	レクリエーション活動				第17回	個別研究に向けて	個別研究の構想から発表までの流れの確認			
第3回	大学における学習活動の基本事項	『学士力向上のためのガイドブック』の活用			事前に目を通しておく必要あり	第18回	個別研究：計画1	・テーマの設定(大テーマからの絞り込み)・構成			
第4回	情報源と情報収集1	文献の調べ方				第19回	個別研究：計画2				
第5回	情報源と情報収集2	いわゆる「ネット情報」の扱い方			WEB, ICT活用	第20回	個別研究：計画3				
第6回	情報の収集、検証、整理1	スポーツに関するネット情報の収集、検証、整理とその報告 出典の明示や信憑性の確認 等			WEB, ICT活用	第21回	個別指導1	個別に進捗状況を確認し指導する。(指導を受けていない時間は、各自、WEBや図書館を利用して活用する。)各自、研究テーマにより研究の方法が異なってくるので、日程に余裕を持って計画的な進め方が求められる。			WEB, ICT活用
第7回	情報の収集、検証、整理2					第22回	個別指導2				
第8回	情報の収集、検証、整理3					第23回	個別指導3				
第9回	情報の収集、検証、整理4					第24回	個別指導4				
第10回	情報の収集、検証、整理5					第25回	個別指導5				
第11回	親睦	ランチパーティー				第26回	個別指導6				
第12回	岩木山を知る1	岩木山を題材として様々な分野を担当で調査、報告する			グループワーク	第27回	研究成果の提出	内容の最終確認			
第13回	岩木山を知る2	岩木山を題材として様々な分野を担当で調査、報告する			プレゼンテーション	第28回	報告書作成	全員のレポートを印刷し、一冊に綴じる。			
第14回	登山の計画と準備	計画の立て方、地図の使い方、コース計画、装備計画、飲食計画 等				第29回	発表の準備	発表用ppt.作成(冬休み中にある程度準備しておくことが望ましい)			
第15回	ゼミ登山	岩木山登山(夏休み中)			フィールドワーク	第30回	発表	ppt.等を使用した研究発表会			プレゼンテーション
評価方法及び評価基準	ゼミへの参加状況(出欠、遅刻、早退)、前期課題および後期の個別研究を点数化し、総合的に評価する。課題については、積極的に指導を受け、指定された様式でまとめられているかを評価する。また、特に個別研究では、オリジナリティを重視する。										
課題等	・スポーツに関する多様なテーマについて、より信憑性の高い情報に基づき考察する。・情報源(出典)を明示することの重要性を学ぶ。 ・岩木山登山										
事前事後学修	普段からWEB以外の情報(書籍、新聞、パンフレット等)にも目を向ける。授業時以外での充分な下調べが求められる。										
教材教科書参考書	前期前半では、『学士力向上のためのガイドブック』を活用 それ以降は、こちらから必要に応じてプリント配布またはWEBを指定する。										
留意点	ゼミ全体あるいは個別の連絡には、Teamsのチャットを活用するので、確認できるようにしておくこと。 パソコンを使用したレポート作成やプレゼンテーションをするので、各自、ノートパソコンを必ず所有すること。										

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10309		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	1年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	高橋 未央				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 文章の作法について学ぶ：①説明的な文章を読む ②他者の説明や発表を聞く ③質問をして理解を深める ④これらを繰り返して、「批判的に読む・聞く」「自ら調べる」「論理的に説明する」ことを練習する										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3,4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-1,2-2,3-2,4-1に関連している										
到達 目標	論理的な筋道をたてて発表原稿をまとめたり、事実をわかりやすく示す図表を作成することなどの作業を通して、調査やプレゼンテーションに習熟すること										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎①	指定した文献を皆で分担して読み、ゼミ時間中に発表することを通して「文書」の書き方を学ぶ。「文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効である。また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にははっきり話すことに慣れていき、他人の発表を聞いて、質問することで、理解し疑問点を整理することを体験する。内容をまとめた「レジメ」を各自作成し発表する。準備段階で、発表に必要な資料を用意し、それを発表時に示して話すことで発表の方法をさらに向上させる。各発表について全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返す。	ディスカッション	第16回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践①	指定した文献を皆で分担して読み、ゼミ時間中に発表することを通して「文書」の書き方を学ぶ。「文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効である。また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にははっきり話すことに慣れていき、他人の発表を聞いて、質問することで、理解し疑問点を整理することを体験する。内容をまとめた「レジメ」を各自作成し発表する。準備段階で、発表に必要な資料を用意し、それを発表時に示して話すことで発表の方法をさらに向上させる。各発表について全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返す。	ディスカッション				
第2回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎②		プレゼン	第17回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践②		プレゼン				
第3回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎③		プレゼン	第18回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践③		プレゼン				
第4回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎④		プレゼン	第19回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践④		プレゼン				
第5回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑤		ディスカッション	第20回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑤		ディスカッション				
第6回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑥		グループワーク	第21回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑥		グループワーク				
第7回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑦		グループワーク	第22回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑦		グループワーク				
第8回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑧		グループワーク	第23回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑧		グループワーク				
第9回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑨		グループワーク	第24回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑨		グループワーク				
第10回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑩		グループワーク	第25回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑩		グループワーク				
第11回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑪		グループワーク	第26回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑪		グループワーク				
第12回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑫		グループワーク	第27回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑫		グループワーク				
第13回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑬		グループワーク	第28回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑬		プレゼン				
第14回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑭		グループワーク	第29回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑭		プレゼン				
第15回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑮		グループワーク	第30回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑮		プレゼン				
評価 方法 及び 評価 基準	レポート 40% 授業の参加状況（発表・質問の回数など） 60%										
課題等	適宜										
事前事後 学修	自分の担当箇所の発表準備と他の発表に対する質問の用意										
教材 教科書 参考書	前・後期に講読する書籍										
留意点	書籍の購入と夏季休業中に鯉ヶ沢町での現地調査を予定しており、交通費（授業のため、必ず電車での移動）が必要となる。状況に応じてオンライン授業アプリ（Teams）を使用して授業を実施することもある。										

科目名	基礎演習 I		科目コード	W10310	単位数	4単位	対象 学年	1年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-BFBE1-00.H	時間	60時間					
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 小論文の文章作成能力を学生自らが上げていくことを目標とする。学生が自ら1年間発表していくテーマを決めて、順番に発表して、能力を磨いていきます。発表した内容について、他の学生が疑問や意見を述べ、発表者はさらに自らの能力を磨いていきます。こうした能力は、社会人になってからも必要であり、その磨き方を1年次からコツコツと学生自らが学んでいきます。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	前述の能力を身につけた上で、教員が課した文章に的確に答えられる能力を身につけます。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備 考
第1回	自分でテーマを決定	自分でテーマを決めることの意義について理解する。				第16回	マンガとアニメについて	我が国のマンガとアニメは、今や世界的にも高評価である。これはなぜか。			
第2回	大学の講義とは	大学で講義に慣れ、これから学ぶことの意義を理解。				第17回	映画について	近年、映画はかなり作られている。その原因を探ろう。			
第3回	演習とは何か	講義と演習（ゼミ）の理解。				第18回	ドキュメンタリーについて	ドキュメンタリーとは何かについて探る。			
第4回	実習とは何か	講義と演習（ゼミ）と実習の違いの理解。				第19回	テレビ・コマーシャルについて	最近10年間に流されるコマーシャルの特徴。			
第5回	作文とは何か	小学生の頃から書いてきた作文について。				第20回	テレビ・ニュースについて	テレビ・ニュースについて考える。			
第6回	感想文とは何か	読書後と体験後の文章について。				第21回	民間テレビ局について	民間テレビ局について考える。			
第7回	エッセイとは何か	雑誌や新聞に出てくるエッセイとは。				第22回	民間ラジオについて	民間ラジオについて考える。			
第8回	レポートとは何か	レポートは「報告」と訳されよう、合ったことや見たことを文章化する。				第23回	NHKについて	NHKの受信料と政治的中立性について。			
第9回	小論文とは何か	テーマについて論理的に展開した上で、自分の考えはこうだと述べる。				第24回	テレビ局と番組制作会社について	番組制作会社の影響力の大きさについて。			
第10回	図書館について	自らが読みたい、考えたいことについて自由に調べられる場所。				第25回	メディアと大手プロダクション	最近の問題について。			
第11回	全国紙の特徴	読売・日経・産経と朝日・毎日の思想。				第26回	健康食品とコマーシャルについて	これらのコマーシャルは非常に多い。そのもつmん大店は。			
第12回	インターネットのの情報	インターネットの情報の長所・短所。				第27回	小説について	学生がこれまで読んできた小説。			
第13回	(本県)地方紙の特徴	陸奥新報・東奥日報・デーリー東北。				第28回	ハウ・ツー本について	その長所と短所について。			
第14回	大手月刊誌の特徴	世界・文藝春秋・中央公論など。				第29回	スマホとメールについて	その長所と短所について。			
第15回	大手週刊誌	大手週刊誌（週刊文春・週刊新潮）				第30回	情報社会と人権について	その長所と短所について。			
評価 方法 及び 評価 基準	本演習への取り組み態度ができていれば、年度の最後に仕上げた諸論文のまとめによって成績を評価します。										
課題等	文章の作り方など、気になることは何でも質問して下さい。										
事前事後 学修	文章の作成途中でも、質問に来て下さい。										
教材 教科書 参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。										
留意点	上記授業内容は、基礎演習の中で、時間があいたときに教員が学生に説明を心がけるものです。学生の要望がなければなりません。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10313		単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 この授業では、社会学あるいはその近接分野の文献（社会意識、コミュニケーション、ネットワーク、社会問題に関する文献）を読み、その内容についての議論を行い、これを踏まえた上で、その内容に関連する地域調査（フィールドワーク）を行います。文献講読と地域調査を組み合わせることで、社会を立体的に理解する眼を養います。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読む力をつける</li> <li>論理的な思考力を高める。</li> <li>さまざまな文献を読むことで、社会的な視野を広げる。</li> </ul>										
授業計画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	ガイダンス	演習の進め方について				第16回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第2回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第17回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第3回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第18回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第4回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第19回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第5回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第20回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第6回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第21回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第7回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第22回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第8回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第23回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第9回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第24回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第10回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第25回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第11回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第26回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第12回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン	第27回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする			ディス カッショ ン
第13回	地域調査の検討	地域調査をどのように行うかということを検討する			ディス カッショ ン	第28回	地域調査の検討	地域調査をどのように行うかということを検討する			ディス カッショ ン
第14回	地域調査の実施	実際に地域調査を実施する			フィー ルドワ ーク	第29回	地域調査の実施	実際に地域調査を実施する			フィー ルドワ ーク
第15回	地域調査の振り返り	地域調査の振り返りを行い、明らかになったことについての意味を議論する			ディス カッショ ン	第30回	地域調査の振り返り	地域調査の振り返りを行い、明らかになったことについての意味を議論する			ディス カッショ ン
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、報告を総合的に評価します										
課題等	課題、報告レジュメのやり取りにはTeamsも使用します										
事前事後 学修	使用するテキストを読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。										
教材 教科書 参考書	講読する文献は、事前の合同ゼミ説明会の際に提示します。										
留意点											

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10314	単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H		60時間					
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 文章の作法について学ぶ：①説明的な文章を読む ②他者の説明や発表を聞く ③質問をして理解を深める ④これらを繰り返して、「批判的に読む・聞く」「自ら調べる」「論理的に説明する」ことを練習する										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3,4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-1,2-2,3-2,4-1に関連している										
到達 目標	論理的な筋道をたてて発表原稿をまとめたり、事実をわかりやすく示す図表を作成することなどの作業を通して、調査やプレゼンテーションに習熟すること										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備 考
第1回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎①	指定した文献を皆で分担して読み、ゼミ時間中に発表することを通して「文書」の書き方を学ぶ。「文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効である。また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にはっきり話すことに慣れていき、他人の発表を聞いて、質問することで、理解し疑問点を整理することを体験する。内容をまとめた「レジメ」を各自作成し発表する。準備段階で、発表に必要な資料を用意し、それを発表時に示して話すことで発表の方法をさらに向上させる。各発表について全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返す。			ディスカッション	第16回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践①	指定した文献を皆で分担して読み、ゼミ時間中に発表することを通して「文書」の書き方を学ぶ。「文書」の書き方は、大学でのレポート等を書くときに役立つほか、自分や他のひとの話しを整理するときにも有効である。また、分担分の要約・発表を通して、本を調べながら読むこと・人にはっきり話すことに慣れていき、他人の発表を聞いて、質問することで、理解し疑問点を整理することを体験する。内容をまとめた「レジメ」を各自作成し発表する。準備段階で、発表に必要な資料を用意し、それを発表時に示して話すことで発表の方法をさらに向上させる。各発表について全員が必ず質問し、理解・思考を深める訓練を繰り返す。			ディスカッション
第2回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎②				プレゼン	第17回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践②				プレゼン
第3回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎③				プレゼン	第18回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践③				プレゼン
第4回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎④				プレゼン	第19回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践④				プレゼン
第5回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑤				ディスカッション	第20回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑤				ディスカッション
第6回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑥				グループワーク	第21回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑥				グループワーク
第7回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑦				グループワーク	第22回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑦				グループワーク
第8回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑧				グループワーク	第23回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑧				グループワーク
第9回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑨				グループワーク	第24回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑨				グループワーク
第10回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑩				グループワーク	第25回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑩				グループワーク
第11回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑪				グループワーク	第26回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑪				グループワーク
第12回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑫				グループワーク	第27回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑫				グループワーク
第13回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑬				グループワーク	第28回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑬				プレゼン
第14回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑭				グループワーク	第29回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑭				プレゼン
第15回	「よむ・かく・きく・はなす」の基礎⑮				グループワーク	第30回	「よむ・かく・きく・はなす」の実践⑮				プレゼン
評価 方法及び 評価 基準	レポート 40% 授業の参加状況（発表・質問の回数など） 60%										
課題等	適宜										
事前事後 学修	自分の担当箇所の発表準備と他の発表に対する質問の用意										
教材 教科書 参考書	「図説 世界の地域問題 100」 漆原和子著（2970円）、 「土地の「未来」は地形でわかる」 渡辺満久著（1980円）										
留意点	題材にする書籍の購入が必要となる。状況に応じてオンライン授業アプリ（Teams）を使用して授業を実施することもある。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10315		単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H			60時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 学生による発表やディスカッションを中心とした主体的な活動を通して、学びと生活上の様々な問題への興味・関心を深め、専攻分野の学修への意欲と基礎的学修能力を高めるゼミ形式での授業を行う。具体的には、①厚生労働統計協会(2023)『国民の福祉と介護の動向2023/2024』から興味・関心をもった章を各自選ぶ。②その要約を行う。③要約に加えて、自身のとらえた問題と課題、具体的対策など、ディスカッションのための資料(レジメ)を作成する。④レジメをもとに発表とディスカッションを行う。⑤ディスカッションのまとめをする。という活動を繰り返すことで、課題発見力、文章力、ディスカッション能力などの向上を目指す。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3,4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-1,2-2,3-2,4-1に関連している										
到達 目標	1 暮らしの中にある様々な問題に関心を寄せ、その解決のための課題と対策をまとめることができる。 2 発表レジメの作成やディスカッションを通して、課題発見力や文章力、ディスカッション能力、発想力を高めることができる。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	オリエンテーション	・演習の進め方の説明 ・グループワークの心構え			グループ ワーク	第16回	発表・討議(6)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション
第2回	文献調査の手法の復習	・文献調査の様々な手法、入手方法に関する復習			グループ ワーク	第17回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション
第3回	資料収集の手法の復習	・新聞、白書、論文、調査報告などの資料の種類について再確認			グループ ワーク	第18回	発表・討議(7)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション
第4回	インターネット検索の功罪	・関係行政庁のホームページと論文検索サイトの利用の仕方を再確認			Web利用、情報 リテラシー含む	第19回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション
第5回	引用ルールの確認	・文献を引用する際のルールを再確認する。Webを活用し討議資料を作成する。			Web利用、情報 リテラシー含む	第20回	発表・討議(8)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション
第6回	発表・討議(1) (教員主導で、演習の進め方の体験)	・発表担当者の作成したレジメの発表と問題・課題の整理と対策を討議する			プレゼンテー ション・ディス カッション	第21回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション
第7回		・前時に解決できなかった、あるいは残された課題について、各自の学びから見出した答えを発表・討議する			プレゼンテー ション・ディス カッション	第22回	発表・討議(9)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション
第8回	発表・討議(2)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション	第23回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション
第9回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション	第24回	年度末報告書の作成の仕方の説明	・1年間レポートして学んだこと、得られた知見をまとめる報告書の書き方についてレクチャー			グループ ワーク
第10回	発表・討議(3)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション	第25回	年度末報告書のテーマ設定	・各自どんなテーマにするか検討、追跡調査の仕方を検討			グループ ワーク
第11回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション	第26回	各自どこまで執筆しているか中間報告	・一週間でどこまで執筆できたか報告しあう。			プレゼンテー ション・ディス カッション
第12回	発表・討議(4)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション	第27回	年度末報告書の発表と討議①	・発表担当の学生が発表し、討議する。			プレゼンテー ション・ディス カッション
第13回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション	第28回	年度末報告書の発表と討議②	・発表担当の学生が発表し、討議する。			プレゼンテー ション・ディス カッション
第14回	発表・討議(5)	・レジメの発表と問題・課題の整理と対策の討議			プレゼンテー ション・ディス カッション	第29回	年度末報告書の発表と討議③	・発表担当の学生が発表し、討議する。			プレゼンテー ション・ディス カッション
第15回		・各自の学びから見出した答えの発表と討議。不足したデータをWeb検索で見つけ補足する資料作成も行う			プレゼンテー ション・ディス カッション	第30回	まとめ	・演習を通して学んだこと、今後の課題等についてまとめを行う			プレゼンテー ション・ディス カッション
評価 方法 及び 評価 基準	○演習への参加状況 35% レジメの作成・発表 30% 年度末報告書 30%で評価する。 ・演習への参加状況は、主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力などを中心に評価する。欠席は1回につき3点を減ずる。 ・レジメの作成・発表・年度末報告書は、課題設定の着眼点、文章構成と文章力、論理性などから評価する。										
課題等	発表担当回に使用(提出)したレジメ等は添削した後、次時間に返却する。記載内容が不十分な場合は再提出とする。										
事前事後 学修	(予習)：時事問題に関心をもち、最新の政策動向を各省庁の白書などから把握すること。1日あたり30分以上とする。(復習)：授業で出された課題や疑問点について、積極的に解決に努めること。図書館での文献収集あるいはインターネット検索等により調べること。復習は90分以上行うこと。										
教材 教科書 参考書	教科書：厚生労働統計協会(2023)『国民の福祉と介護の動向2023/2024』同協会発行(2640円) ISSN 0452-61041 その他に適宜資料を配布する。										
留意点	○原則2回の授業(発表・討議)を1セットとして実施する。 ○資料作成・発表の担当となったときには、責任をもって資料作成を行い、ディスカッションを進行すること。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10316		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	宮田 将希					授業 形態	演習	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 社会福祉に関する様々な課題や議題についてディスカッションを行う。 議題については教員から指定するほか、各々が興味関心のある内容についても取り上げていく。 学生自身が自分の考えをまとめ、発表（プレゼンテーション）していくプロセスを学んでいく。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している										
到達 目標	社会福祉を学ぶことの意義を理解し、自身の考えを他者に伝える力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について				第16回	オリエンテーション	授業の進め方について			
第2回	議題提供及び ディスカッション グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題についての意見を出し合い、議論を進めていく。</li> <li>・ 議題（課題）に関して、問題の所在がどこにあり、それを解決していくために必要なこと、課題解決に向けたプロセスを考えていく。</li> <li>・ 出し合った意見を踏まえて、最終的な意見を発表する。</li> </ul>			グループ ワーク ディス カッシ ョン	第17回	議題提供及び ディスカッション グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題についての意見を出し合い、議論を進めていく。</li> <li>・ 議題（課題）に関して、問題の所在がどこにあり、それを解決していくために必要なこと、課題解決に向けたプロセスを考えていく。</li> <li>・ 出し合った意見を踏まえて、最終的な意見を発表する。</li> </ul>			グループ ワーク ディス カッシ ョン
第3回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第18回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第4回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第19回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第5回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第20回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第6回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第21回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第7回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第22回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第8回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第23回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第9回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第24回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第10回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第25回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第11回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第26回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第12回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第27回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第13回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第28回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第14回	議題提供及び ディスカッション グループワーク					第29回	議題提供及び ディスカッション グループワーク				
第15回	まとめ					これまでのまとめ					
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（出席・発言・発表内容）に応じて評価。										
課題等	適宜										
事前事 後学修	それぞれが興味関心のある議題について、事前に調べておく。										
教材 教科書 参考書	授業ごとに必要な教材については指定する。										
留意点											

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10320		単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H							
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 「マンガで学ぶ」をテーマとし、作品における具体的な場面に即して、そこで描かれる事物や心情をつかみ、単なる暗記物として社会保障や社会福祉の制度等を覚えるのではなく、人間が人間のために作った血の通ったものとして理解を深めることを目指す。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している。										
到達 目標	「事実」に向き合ったとき、何が必要不可欠なことであり、何が必ずしもそうではないかを見極める力を養う。その上で、解決に至るプロセスを見出し、利用しうる社会資格等をフル活用していけるような構想力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修			備考
第1回	ガイダンス①	何を・どのように学んでいくか				第16回	第三の事例を読む①	概要をつかむ			
第2回	ガイダンス②	レファレンスの方法				第17回	第三の事例を読む②	論点の抽出			
第3回	第一の事例を読む①	概要をつかむ				第18回	第三の事例を読む③	論点に関する学習			
第4回	第一の事例を読む②	論点の抽出				第19回	第三の事例を読む④	事実の再構成			
第5回	第一の事例を読む③	論点に関する学習				第20回	第三の事例を読む⑤	総括			
第6回	第一の事例を読む④	事実の再構成				第21回	第四の事例を読む①	概要をつかむ			
第7回	第一の事例を読む⑤	総括				第22回	第四の事例を読む②	論点の抽出			
第8回	第二の事例を読む①	概要をつかむ				第23回	第四の事例を読む③	論点に関する学習			
第9回	第二の事例を読む②	論点の抽出				第24回	第四の事例を読む④	事実の再構成			
第10回	第二の事例を読む③	論点に関する学習				第25回	第四の事例を読む⑤	総括			
第11回	第二の事例を読む④	事実の再構成				第26回	第五の事例を読む①	概要をつかむ			
第12回	第二の事例を読む⑤	総括				第27回	第五の事例を読む②	論点の抽出			
第13回	補足①	触れられなかった論点の学習				第28回	第五の事例を読む③	論点に関する学習			
第14回	補足②	触れられなかった論点の学習				第29回	第五の事例を読む④	事実の再構成			
第15回	前期の振り返り	残された課題と展望				第30回	第五の事例を読む⑤	総括			
評価 方法 及び 評価 基準	平常評価（準備・発表・討論への参加等）										
課題等	特になし										
事前 事後 学修	事前事後を問わず、参考となる文献等のレファレンスに努めること。										
教材 教科書 参考書	さいきまこ『助け合いたい』（秋田書店）ISBN978-4-253-10642-9										
留意点	社会福祉実践コース・人間科学コースのいずれを選択している学生でも履修できる。随時、ディスカッションを行う。										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目コード	W10311	単位数 時間	4単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年	
			科目ナンバリング	W-BFBE1-01.H		60時間					
区分	基礎教育科目	必修	担当名	西東 克介			授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	〔授業の主旨〕 1年次に小論文の作成能力を学生自らが上げてきた能力を基に、さらにその能力を上げていくことを目標とします。1年次に私のゼミや他のゼミでどのような能力を身につけてきたかを確認し、それを基に新しいテーマか、1年次と同じテーマでさらに能力に磨きをかけていく。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 3-2, 4-1に関連している。										
到達 目標	前述の能力を身につけた上で、教員が課した文章に的確に答えられる能力を身につけていきます。										
授業計画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	1年次に自分で身につけた文章能力についてそれぞれ語る。	自分でテーマを決める意義について述べる。				第16回	学生が夏休みの出来事を振り返る	質問や意見交換			
第2回	西東ゼミの説明	2年目の大学の講義と関連させながら、どのように文章能力を磨いていくのかを語る。				第17回	学生の発表	質問や意見交換			
第3回	学生の発表	質問や意見交換				第18回	学生の発表	質問や意見交換			
第4回	学生の発表	質問や意見交換。				第19回	週刊文春・週刊新潮の記事を読む	質問や意見交換			
第5回	西東から発表についての諸注意	諸注意に関する質問や意見を聞く。				第20回	学生の発表	質問や意見交換			
第6回	感想文とは何か	読書後と体験後の文章について、質問や意見を聞く。				第21回	民間テレビ局について	民間テレビ局について考える。			
第7回	学生の発表	質問や意見交換				第22回	NHKについて	NHKの受信料金と政治的中立性について述べる。			
第8回	学生の発表	質問や意見交換				第23回	テレビ局と番組製作会社について	番組製作会社の影響力の大きさについて、述べる。			
第9回	新聞の社説を読む	社説に関する質問や意見交換				第24回	学生の発表	質問や意見交換			
第10回	記者の意見を載せた新聞記事を読む	質問や意見交換				第25回	学生の発表	質問や意見交換			
第11回	学生の発表	質問や意見交換				第26回	雑誌（「世界」・「中央公論」・「文藝春秋」）の記事を読む。	質問や意見交換			
第12回	学生の発表	質問や意見交換				第27回	同上	同上			
第13回	（本県）地方紙の特徴	陸奥新報・東奥日報・デーリー東北について説明する。				第28回	学生の発表	質問や意見交換			
第14回	全員で前期の反省会	質問や意見交換				第29回	学生の発表	質問や意見交換			
第15回	西東からの前期のまとめ	質問や意見交換				第30回	基礎演習Ⅱの教員と学生の反省	質問や意見交換			
評価 方法 及び 評価 基準	本演習へ取り組む態度ができていれば、年度の最後に仕上げた諸論文のまとめによって成績を評価します。										
課題等	文章の気になるところなど、何でも質問して下さい。										
事前事後 学修	文章の作成途中で質問に来て下さい。										
教材 教科書 参考書	文章の作り方などの参考書は自分で選んで下さい。										
留意点	自らの発表内容を大切に、他学生の発表をよく聞いて参考にすること。										

科目名	社会科学研究方法			科目コード	W10001	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
				科目名	W-BFBE1-02. H		30時間				
区分	基礎教育科目	必修	担当者名	西東 克介・藤岡 真之				授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 本講義は、社会を分析対象とする社会科学が、何を対象とし、どのような特徴を持つかということを学びます。また、社会科学における具体的な研究方法について学びます。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、2-2、3-2、4-2に関連している										
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学的研究方法の類型を理解する（藤岡）。 ・社会科学的研究の進め方を理解する（藤岡）。</li> <li>・社会科学の限界と可能性を实践との関係において理解します（西東）。</li> <li>・身近な事柄に社会科学を学ぶ多種多様な材料があることを理解します（西東）。</li> </ul>										
授 業 計 画											
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	西東・藤岡による講義概要・試験等について説明。			講義の受け方、学習方法、成績に付け方、出欠の取り方などの理解。							
第2回	社会科学的研究方法の類型			社会科学の特徴を踏まえて、社会科学的研究方法の特徴と類型を学ぶ							
第3回	意味の解釈(1)－少年非行に関する問題			戦後の少年犯罪に関する社会学的分析を通じて、社会と意味の関係について学ぶ							
第4回	意味の解釈(2)－ラベリング理論、構築主義			ラベリング理論、構築主義の考え方をすることで、社会関係が意味的に成り立つ側面について学ぶ							
第5回	統計帰納法(1)－デュルケム『自殺論』			社会学的研究の古典であるデュルケム『自殺論』を題材に、統計帰納法を学ぶ							
第6回	統計帰納法(2)－現代の社会意識			現代の社会意識に関する統計データを読み取りながら、社会を統計的に理解することについて学ぶ							
第7回	研究の具体的な進め方(1)			これまでに学んだ研究方法の特徴を再確認しつつ、社会科学的研究方法によって明らかに出来ることと限界について、より深く理解する							
第8回	研究の具体的な進め方(2)			研究を企画し、進める仕方について学ぶ							
第9回	大学での学習とこれ以外の能力の磨き方			大学での学習能力向上には日常生活における学習以外の友人関係、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイト等で学べる能力向上へ調整してみよう。							
第10回	社会科学とは			社会科学に関する基本的知識と可能性の理解。					学生はグループに分かれ、いくつか質問を提出。		
第11回	社会科学の発想(1)			54年前の吉田拓郎のデビュー局「イメージの詩」のシから、多種多様な研究や文化的発想を可能にさせる部分を考えます。							
第12回	社会科学の発想(2)			「うわさ」についての社会科学的分析の理解と限界を吉田拓郎の歌「ひらひら」から考えます							
第13回	社会科学と公共政策論の違いと共通点			社会科学とすっかり定着した感のある公共政策論(政策科学)の違いと共通点、それらの可能性と限界についての理解。					学生はグループに分かれ、いくつか質問を提出。		
第14回	学習と学習以外で磨いた能力と社会福祉実践における共通点			社会福祉の現場での実践は、学習能力加えて、学習以外で身につけた能力が重要であることを理解。							
第15回	社会科学と価値の関係			社会科学は、価値を完全に排除することはできない。これが医学の可能性であり、限界で盛る。このことについて理解。							
評価 方法及び 評価 基準	(藤岡) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が論理的に表現されているかどうかという点を評価します。 (西東) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が表現されていることを評価基準とします。										
課題等	(西東) 理解できたところだけでも、考える習慣を身につけよう。										
事前事後 学修	授業で配布されるプリント、授業中に指示される文献等を参照して、理解を深めてください。 事後学習時間の目安：週当たり3時間程度。 (西東) 理解できないところがあれば、授業前でも質問に来て下さい。										
教材 教科書 参考書	(藤岡) レジュメを授業中に配布します。参考書は、適宜提示します。(西東) 配布するレジュメや印刷した新聞記事。										
留意点											

科目名	医学一般		科目コード	W21023	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-00						
区分	共通基盤科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	相馬 信 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会福祉士として必要な人体の特徴と各種疾患、特に高齢者に多い疾患を理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、2-2、3-2、4-2に関連している									
到達 目標	人体の仕組みを学ぶ。社会的弱者たる高齢者、障害者に寄り添う姿勢を学び、実につける。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	人体の成長、老化			ライフスタイルの心身の変化を学ぶ。				講義		
第2回	身体の構造と心身機能 - ①			人体各部の名称、心臓、腎臓を学ぶ。				講義		
第3回	身体の構造と心身機能 - ②			呼吸、消化器、神経を学ぶ。				講義		
第4回	疾病の概要 - ①			生活習慣病、悪性疾患を学ぶ。				講義		
第5回	疾病の概要 - ②			高血圧症とそれに伴う心、脳、血管疾患を学ぶ。				講義		
第6回	疾病の概要 - ③			消化器、胃、泌尿器疾患を学ぶ。				講義		
第7回	疾病の概要 - ④			糖尿病とその合併症を学ぶ。				講義		
第8回	疾病の概要 - ⑤			高齢者に多い骨、神経疾患を学ぶ。				講義		
第9回	障害の概要 - ①			肢体不自由、視覚障害を学ぶ。				講義		
第10回	障害の概要 - ②			発達、知的障害を学ぶ。				講義		
第11回	障害の概要 - ③			精神障害、認知症を学ぶ。				講義		
第12回	国際生活機能分類（ICF）の概要			ICFの概要を学ぶ。				講義		
第13回	リハビリテーション			リハビリテーションの適応と進歩を学ぶ。				講義		
第14回	公衆衛生			公衆衛生の概要、健康づくり対策				講義		
第15回	まとめとテスト			既習内容の振り返り				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験60点以上で合格とする。									
課題等	課題を指示し、レポート(800字以内)を提出し、質疑応答する。その後提出されたレポートは返却する。									
事前 事後 学修	授業中、参考文献を付し、レポート提出する。試験にも出題する。週3時間を目安に取り組むこと。									
教材 教科書 参考書	『新・社会福祉士養成講座Ⅰ 人体の構造と機能及び疾患』中央出版 ISBN:978-4-8058-5100-5									
留意点	授業に参加すること。授業内容は教科書以外にもあります。									

科目名	障害者の生涯学習		科目コード	W21026	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
	科目名	科目名	科目コード	W-BFCB2-02	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	川村 泰弘			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 障害のある人々の生涯にわたる教育権・学習権は国際的なレベルでも確認されている。本授業では、障害のある人々が種々の困難を乗り越えて生涯学習の活動に参加し、また、学ぶ機会の拡大を獲得していくためには、社会がどうあればよいかをグループワークやディスカッション、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成を通して考えていく。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連している									
到達目標	1 障害のある人々の学校教育終了後の学びと社会参加の現状と課題について、ディスカッションにより理解を深める。 2 障害のある人々の生涯にわたる学びの保障と推進・拡充のあり方について、自分の意見を述べることができる。 3 グループ別に、先行事例を参考にしながら「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画を考え、発表する。									
授業計画										
回	主題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	オリエンテーション 生涯学習の定義と障害者と生涯学習		・学習の進め方（グループディスカッション）について説明する。 ・生涯学習の歴史と「障害者の生涯学習」に関する我が国の取り組みを配布資料及び「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の報告」等を通して知る。						毎回の授業終了時に次時の予習シートを配布する。	
第2回	障害者権利条約と生涯学習		・教科書の「はじめに」及び「序章 障がい者権利条約と生涯学習の保障」を通読し、障がい者の学び権利について意見交換する。						グループワーク	
第3回	生涯学習の場で学ぶ障害のある青年・成人の声を聴く		・教科書「第1章 友だちと学ぶのは楽しい」を読み、障害者自身の語る言葉を通して、障害者にとっての生涯学習の意義と必要性を理解する。						グループワーク 小レポート	
第4回	地域・施設における青年学級の実践		・教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第1節「那賀青年学級（和歌山）」と第2節「スマイル青年（東京）」の実践を通して青年学級の役割を考える。						グループワーク	
第5回			・教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第3節「ハスの実の家」（福井）と第4節「われらの大分県」（滋賀、京都）の実践を通して「障害の重い人にとっての学び」と「知的障害のある人々の高等教育」について考える。						グループワーク 小レポート	
第6回	大学におけるオープンカレッジの実践		・教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第1節「オープンカレッジ東京（東京学芸大学）」の実践を通して、大学を活用した生涯学習講座の意義とその運営の在り方を探る。						グループワーク	
第7回			・教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第2節「愛知県立大学におけるオープンカレッジ」の実践を通して、発達障害のある青年への生涯学習支援について考える。						グループワーク 小レポート	
第8回	障害のある人のスポーツ活動		・教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第1節「スポーツ分野における障がいのある人の生涯学習」を読み、障害者スポーツの現状と障害があってもスポーツを学び、楽しむことのできる環境整備について考える。						グループワーク	
第9回	障害のある青年・成人期への性と生の学習		・教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第2節「いのち・愛・性を学ぶ障がい当事者たち」を読み、障害のある青年・成人期における性と生の学習の大切さを考える。						グループワーク 小レポート	
第10回	すべての人々の生活・人生における学びの保障		・教科書「第5章 障がい者の社会教育、生涯教育の歩みと現状」の第1節「障がい者社会教育の考え方と課題」を読み、障害のある人々を含むすべての人々の生活・人生にとっての学習保障を考える。						グループワーク	
第11回	我が国における障がい者の社会教育・生涯学習の歴史		・教科書「第6章 歴史に学ぶ」を通して、障がい者の社会教育・生涯学習の我が国における歴史的な流れを振り返り、障害のある人々の生涯学習のこれからを考える。						グループワーク	
第12回	障害者の生涯学習を推進するために私たちがしなければならないこと		・学生を数グループに分け、それぞれが障害者支援グループであると想定して、「（※）障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画案を作成する（※）はグループで自由に設定した障害者とする。						グループワーク	
第13回									グループワーク	
第14回	報告会「これからの障害者の生涯学習」		・企画・運営計画案を発表し、話し合うことにより、「障害者の生涯学習講座」の計画づくりの楽しさと難しさを味わう。						グループワーク 小レポート	
第15回	障害のある人々の生涯学習支援		・教科書「終章 障がい者の生涯学習支援の展望と課題」の第2節「断続性と任意の『生涯学習』から権利としての生涯にわたる学び・発達支援へ」を読み、障害者の生涯学習についての各自の考えをまとめる。						グループワーク	
評価方法及び評価基準	レポート（40%）、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成（30%）、授業への参加度（30%）									
課題等	授業の区切りに行う小レポート									
事前事後学修	授業前に教科書の内容を確認しておくこと。 授業後は、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：田中良三・藤井克徳・藤本文朗編著（2016）『障がい者が学び続けるということ』新日本出版社 ISBN978-4406059794 そのほか、随時プリントを配布する。									
留意点	企画・運営計画案の作成は、授業時間内だけでは難しい場合もあることから、メンバー間で空き時間等を調整して主体的に進めてください。									

科目名	日本国憲法 A		科目コード	W21007	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-05	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 日本国憲法Aおよび日本国憲法Bを通じて、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。日本国憲法Aにおいては、まず、民主主義の統治の基本原則を学び、その後、統治の機構としての「国民」やその代表者で構成される「国会」について学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。									
到達 目標	日本国憲法が、近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、そもそも基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとするを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	統治の基本原則①		民主主義							
第2回	統治の基本原則②		「主権」概念の形成と展開							
第3回	統治の基本原則③		国民主権					ディスカッション		
第4回	統治の機構Ⅰ：「国民」		「国民」の要件							
第5回	統治の機構Ⅰ：「国民」		「国民」の位置づけ							
第6回	統治の機構Ⅰ：「国民」		「国民」の権能					ディスカッション		
第7回	統治の機構Ⅱ：「国会」		国権の最高機関							
第8回	統治の機構Ⅱ：「国会」		唯一の立法機関							
第9回	統治の機構Ⅱ：「国会」		国会の構成							
第10回	統治の機構Ⅱ：「国会」		国会の権能							
第11回	統治の機構Ⅱ：「国会」		議院の権能							
第12回	統治の機構Ⅱ：「国会」		議員の地位と特権							
第13回	統治の機構Ⅱ：「国会」		国会と内閣の関係							
第14回	統治の機構Ⅱ：「国会」		国会と裁判所の関係					ディスカッション		
第15回	総括		まとめと振り返り					反転学習		
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に行う筆記試験のみで評価する。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許可する。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行う。									
課題等	特に指定しない。									
事前事後 学修	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材 教科書 参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									

科目名	日本国憲法B		科目コード	W21008	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFC2-06						
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 日本国憲法Aに引き続いて、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。具体的には、内閣、裁判所、地方自治の順で、日本国憲法が規定する統治機構を学んだ後、統治に関する諸問題をとって、憲法保障などもとりあげる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。									
到達 目標	「日本国憲法A」と同様に、日本国憲法が近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、基本的人権を保障する仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものにすることを旨とする。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			行政権とその帰属						
第2回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			内閣の組織						
第3回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			内閣の権能						
第4回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			大臣の権能				ディスカッション		
第5回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			司法権とその帰属						
第6回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			司法権の範囲と限界						
第7回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			裁判所の種類と構成						
第8回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			裁判所の権能						
第9回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			違憲審査制度				ディスカッション		
第10回	統治の機構Ⅴ：「地方自治」			地方自治制度						
第11回	統治の機構Ⅴ：「地方自治」			条例制定権の範囲と限界				ディスカッション		
第12回	統治に関する諸問題①			憲法保障				ディスカッション		
第13回	統治に関する諸問題②			緊急事態				ディスカッション		
第14回	統治に関する諸問題③			地方分権				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				反転学習		
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に行う筆記試験のみで評価する。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許可する。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行う。									
課題等	特に指定しない。									
事前事後 学修	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材 教科書 参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									

科目名	知的障害者の心理 I		科目コード	W71002	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-KYT02-01		30時間				
区分	共通基盤科目 教職科目(特別支援)	選択 必修	担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 知的障害の概念及び知的障害児・者の心理に関する基本的事項を理解し、指導・支援を検討するための知識・技能を修得することを旨とする。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。									
到達 目標	心身の発達、心理機能の基本的理解を行い、知的障害のアセスメント方法やその課題等についても理解する。知的障害者一般についての特性を理解したうえで、個人ごとの特性に応じた具体的な指導のヒントを検討できるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	知的障害の捉え方			障害概念と知的障害概念の変遷						
第2回	知的障害と学校			知的障害を対象とした学校教育、インクルーシブ教育システム						
第3回	知的障害の理解方法			実態把握の進め方、実態把握から指導へ						
第4回	心理アセスメント			心理アセスメントの目的と方法、検査者の資格						
第5回	多面的な理解			心理検査の種類、情報共有の在り方						
第6回	知的機能のアセスメント			知能検査の種類と特徴、ウェクスラー式、ビネー式等						
第7回	知的障害の感覚・知覚			感覚・知覚機能の基礎、感覚、知覚、認知、視知覚						
第8回	知的障害の視知覚機能			視知覚機能の特徴と指導上の配慮						
第9回	知的障害の運動機能と運動発達			運動機能の発達と運動・スポーツ、不器用さ						
第10回	運動機能の課題と指導の工夫			運動機能改善における指導の工夫						
第11回	生涯教育としての運動			日常生活場面、スポーツにおける運動機会						
第12回	知的障害の学習			オペラント条件付け、見本合わせ法						
第13回	学習指導の工夫			課題分析、ICTの活用						
第14回	知的障害の指導における課題			レポート作成及び発表						
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ						
評価 方法及び 評価 基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。									
事前事 後学修	知的障害の特徴について理解を深めるためにも、一般的な発達について学ぶこと。									
教材 教科書 参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5									
留意点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	病弱者の心理・生理・病理		科目コード	W71005		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-KYT02-04							
区分	共通基盤科目 教職科目(特別支援)	選択 必修	担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	【授業の主旨】 病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2に関連する。										
到達 目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病気対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考える。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション、病弱の概念			授業の内容と進め方の説明、病弱の概念							
第2回	病弱教育の捉え方			病弱教育に関する体験やイメージ							
第3回	病弱教育の変遷・教育課程			病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法							
第4回	病弱児の心理			病弱児の心理理解の視点							
第5回	主な病気の概要と教育支援			小児がん：白血病							
第6回	主な病気の概要と教育支援			アレルギー疾患：ぜん息							
第7回	主な病気の概要と教育支援			糖尿病							
第8回	主な病気の概要と教育支援			てんかん							
第9回	主な病気の概要と教育支援			精神性疾患							
第10回	病弱教育における情報化			病弱教育における情報化の意義と課題							
第11回	キャリア教育			キャリア教育の背景、病弱児の社会的自立とは							
第12回	病弱児と医療的ケア			重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容							
第13回	教育と医療・福祉等との連携			病弱児に関係する諸制度、多職種連携の在り方							
第14回	病弱児教育上の課題			課題の把握と今後の学習テーマ						レポート発表	
第15回	試験とまとめ			試験とまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（30%）、授業への参加度（40%）、レポート（30%） 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。										
課題等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。										
事前 事後 学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。										
教材 教科書 参考書	参考書 日本育療学会編著 標準「病弱児の教育」テキスト ジアース教育新社 2019 ISBN978-4-86371-493-9										
留意点	病気・障害の有無に関わらず、子どもを見る、関わる、遊ぶ機会を大切にしてください。										

科目名	社会政策論		科目コード	W21013	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-08						
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	松本 悦子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会政策は、資本主義経済の発展に伴い、様々な社会問題が顕在化したことで成立してきました。本講義では社会政策上の課題（労働・雇用、子育て・介護など）について、今日の具体的な社会問題を取り上げ、多様な視座から社会政策について体系的に学びます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2に関連する。									
到達 目標	1. 社会政策に関する基礎知識を学び、日本社会の現状について理解を深める 2. 労働政策や雇用政策、また、医療・介護・年金制度などの概要について説明できるようになる 3. 現代社会の課題について、自ら問いをたて、具体的な解決方法を考える力を身につける									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			本講義を受けるにあたって						
第2回	社会政策と日本社会の現状			日本社会の現状をふまえながら社会政策とは何かを理解する						
第3回	社会政策の考え方			社会政策がどのような歴史的展開をとげてきたのかを学ぶ						
第4回	労働時間と生活			現代社会において、労働時間の何が問題なのかを具体的に知る					グループワーク	
第5回	働き方と社会政策			働き方について国際社会の取り組みから考える						
第6回	賃金と社会政策			賃金と社会政策の深い関係について学ぶ					反転学習	
第7回	雇用・失業と社会政策			正規・非正規雇用の問題について具体的に考える						
第8回	労働と生活問題			労働と生活問題の結びつきについて理解を深める					グループ ディスカッション	
第9回	生活と保障			公的年金制度など生活を支える保障について学ぶ						
第10回	男女平等政策と現代社会			男女の働き方と社会の取り組みについて考える					反転学習 グループワーク	
第11回	現代の貧困と社会政策			貧困問題と労働を結びつけ、様々な角度から理解を深める						
第12回	高齢社会と社会政策			高齢社会で必要となってくる社会政策について学ぶ						
第13回	グローバル化と社会政策			国境を超える人の移動と労働について具体的に考える					グループワーク	
第14回	労使関係の展開と労働組合			労働組合とは何か、労使関係とはどのようなものかを学ぶ						
第15回	現代社会と社会政策			「労働と生活」をめぐる課題およびその解決方法について考える						
評価 方法 及び 評価 基準	講義の終わりにコメントカードを提出してもらいます（30点, 30%）。加えて学期末に試験を行います（70点, 70%）。評価は上記の総合評価（合計100点, 100%）で行います。 試験は、到達目標(1)(2)に対応して、総合的な問題を出題します。									
課題等	講義内で提出してもらったコメントについては次時間にフィードバックします。									
事前事 後学修	ネット以外の情報媒体にも気を配り、普段から「働き方」に関するニュースや労働問題に関心を持つように心がけてください。 社会の動きを知ると同時に、さまざまな視座を身につけるきっかけになり、学習効果を高められると思います。 準備学習時間目安：1日30分以上									
教材 教科書 参考書	使用しません。必要に応じて資料を配付します。									
留意点	随時質問を行い回答してもらおう（回答する）、双方向的な講義形態で授業を進めます。学生の主体的・積極的な発言や質問を期待します。私語や他の学生の迷惑になる行為は認めませんので注意してください。なお講義の順番は必要に応じて入れ替わることがあります。									

科目名	行政法A		科目コード	W21015	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-09		30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	堀内 健志				授業 形態	講義	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 行政法の基本特徴や意義・今日的課題などを諸学問との相違や関連に留意して、概括的に学びます。行政法総論です。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2に関連する。									
到達 目標	行政法を初めて学ぶ学生が、基礎知識をしっかりと理解できるようになることを目標とします。さらには、学生がこれらを用いて、行政法の体系的な構造を理解でき、重要な論点を考えることができるようになることを到達目標としています。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス			行政法とは、どのような法であり、それをどのように学ぶのかについて、学ぶ。毎回3時間程度の予習・復習を心がけること。				講義		
第2回	行政法の基礎理論、「行政法」の性格			憲法は変化していくが、行政法は存続する。が、戦後、大陸型に英米型の行政法が混在することになった。「法律による行政の原理」と「法の支配」論				講義		
第3回	「行政法」の構造			「行政法基礎理論」「内部行政法」「外部行政法」				講義		
第4回	「行政法」の基本的諸問題			公法と私法、特別権力関係論、自由裁量、行政法の公定力				講義		
第5回	「行政法」の基本的諸問題			瑕疵ある行政行為の取消と無効、委任立法の限界、行政秩序罰				講義		
第6回	「行政法」の基本的諸問題			行政代執行、統治行為、抗告訴訟、訴えの利益				講義		
第7回	「行政法」の基本的諸問題			行政指導、集団訴訟と行政手続、官僚制と公務員の資質				講義		
第8回	「行政」概念			行政の控除説				講義		
第9回	「行政」概念			新しい行政概念構築の試みは成功していない。				講義		
第10回	「行政」概念			行政の任務の諸分野				講義		
第11回	「法律による行政の原理」とその現代国家的変容			O・マイヤーの伝統的「法律の支配」論				講義		
第12回	「法律による行政の原理」とその現代国家的変容			現代国家的変容と本質性理論の評価、及びわが国の現状				講義		
第13回	「公法と私法」			伝統学説と国家任務の増大・変質、今日の学説の状況				講義		
第14回	「行政法源」			行政法の成文法主義、不文法源の可否論議の吟味				講義		
第15回	まとめ			現代における行政法の日常性の再確認				講義		
評価 方法及び 評価 基準	定期試験評価80パーセント、平常点評価20パーセントとして評価します。到達目標に対応して、基本概念や語句の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出します。答案の構成や論理性を重点的に評価します。									
課題等	講義内容についての質問などは、常時歓迎します。									
事前事後 学修	1講義につき、3時間程度の予習・復習がのぞまれます。									
教材 教科書 参考書	教科書は使わないが、参考書として、堀内健志『公法2新版行政法』（信山社）ISBN4-434-06500-9、藤田宙靖『行政法入門第7版』（有斐閣）ISBN978-4-641-13195-8、及びポケット六法（有斐閣）ISBN978-4-641-00918-9									
留意点	講義では、学説、判例などについて、最新の内容で展開しますので、是非講義内容に注目し、ノートを充分に活用することが有効でしょう。									

科目名	行政法B		科目コード	W21016	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-10						
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	堀内 健志				授業 形態	講義	単独
授業の 概要	〔授業の主旨〕 行政法の基本特徴や意義・今日的課題などを諸学問との相違や関連に留意して、概括的に学びます。行政組織法、行政救済法・概観です。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1,2,3に関連し、カリキュラムポリシーの1-1,2-2,3-2に関連する。									
到達 目標	学生が公務員試験や各種資格試験などに十分対応できるようになることを目標としています。また、学生が行政組織法、公務員法、行政仮定法、行政作用法などについて体系的に理解できるようになることを目指しています。改正行政不服審査法や改正行政事件訴訟法などにも対応しています。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	内部行政法			ガイダンス、毎回3時間程度の予習と復習をすることがのぞまれます。					講義	
第2回	「行政法」規範の分類			行政法を学ぶ上で、まずは、行憲法と組織法、および内部法と外部法の区別をすることが便利である。					講義	
第3回	「行政組織法」			国家・国家機関・国家公務員の概念的な区別を理解する。					講義	
第4回	「国の組織」			行政主体として、国家、地方公共団体、公共組合、公社・公団					講義	
第5回	「行政機関」			内 閣、内閣府、省・庁・委員会、地方支分局、行政機関の概念、行政庁とその他の機関、権限の委任と代理、指揮監督、協議、調整					講義	
第6回	「地方自治・分権」			憲法上の地方自治と分権、平成の「国のかたち」の改革法の解説、機関としての町村総会・議会・長・委員会・委員、直接参政					講義	
第7回	「公務員法」			公務員の意義、権利・義務					講義	
第8回	外部行政法、個人的公権			国家に対して市民はどのようにして対抗するのか。国家・国民の法的関係。個人的公権の分類・体系、反射的利益、私人の公法行為					講義	
第9回	「行政過程法」			行政の全プロセスをダイナミックに捉える。行政処分を中心に事前と事後に分けて展開します。					講義	
第10回	「行政救済法・概観」「行政争訟」			事後救済としての処分を取り消すなどの不服申立と行政訴訟。改正行政不服審査法と改正行政事件訴訟法を解説します。					講義	
第11回	「国家補償」			損失補償と国家賠償の制度、及びこれらの狭間にあるワクチン禍、戦争責任などの諸問題をどのように救済するかを検討します。					講義	
第12回	「行政手続法」（情報公開法、個人情報保護法を含む）			事前手続としての行政手続法の検討、そして情報公開と個人情報保護の現状。					講義	
第13回	「行政作用法」「行政立法」			伝統的行政法学の中心であった行政作用法を概観します。					講義	
第14回	「行政行為」「行政指導」			「行政行為」「行政指導」などの概念・性格を学びます。					講義	
第15回	まとめ			行政法はまことに今日市民として不可欠、必須の法分野であることを確認します。					講義	
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験評価80パーセント、平常点20パーセントとして評価します。到達目標に対して、基本概念や語句の理解を前提に、現実社会に対する洞察力を試す問題を出します。答案の構成や論理性を重点的に評価します。									
課題等	講義内容についての質問などは、常時歓迎します。									
事前事後 学修	1講義につき、3時間程度の予習・復習がのぞまれます。									
教材 教科書 参考書	教科書は使わないが参考書として、堀内健志『公法2新版行政法』（信山社）ISBN4-434-06500-9、藤田宙靖『行政法入門第7版』（有斐閣）ISBN978-4-641-13195-8、及びポケット六法（有斐閣）ISBN978-4-641-00918-9を指定します。									
留意点	講義では、学説、判例などについて、最新の内容で展開しますので、是非講義内容に注目し、ノートを十分に活用することが有効でしょう。									

科目名	権利擁護と成年後見		科目コード	W21030	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-11	時間	30時間				
区分	共通基盤科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	吉村 顕真			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 講義を通じて次の5つの項目の理解を促す。 ①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の知識を理解する。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要なものに対する権利擁護活動の実践について理解する。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-2, 4-1, 4-2に関連する。									
到達 目標	①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の知識を理解することができる。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解することができる。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要なものに対する権利擁護活動の実践について理解することができる。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解することができる。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	法の基礎(1)		①法と規範(法と規範との関係、法と道徳の関係)、②法の体系、種類、機能(成文法と不文法、公法と私法、実体法と手続法、法規範の特質と機能)について学ぶ。							
第2回	法の基礎(2)		①法の基礎知識、法の解釈(法律条文の構造、法解釈の基準と方法)、②裁判制度、判例を学ぶ意義(裁判の種類、判決の種類、判決とは)について学ぶ。							
第3回	ソーシャルワークと法の関り(1) 憲法		①憲法の概要、②基本的人権、③幸福追求権について学ぶ。							
第4回	ソーシャルワークと法の関り(2) 民法①		民法総論、契約について学ぶ。							
第5回	ソーシャルワークと法の関り(3) 民法②		不法行為、親族、遺産管理について学ぶ。							
第6回	ソーシャルワークと法の関り(4) 行政法①		行政組織、行政の行為形式、行政上の義務履行確保について学ぶ。							
第7回	ソーシャルワークと法の関り(5) 行政法②		行政訴訟制度、国家の責任、地方自治法について学ぶ。							
第8回	権利擁護の意義と支える仕組み(1)		①権利擁護の意義、②福祉サービスの適正な利用(運営適正化委員会、国民健康保険団体連合会)、③苦情解決の仕組み(事業者による苦情解決、自治体等による苦情解決)について学ぶ。							
第9回	権利擁護の意義と支える仕組み(2)		①虐待防止防止法の概要(高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者虐待防止法)、②差別禁止法の概要(障害者差別解消法)について学ぶ。							
第10回	権利擁護の意義と支える仕組み(3)		意思決定支援ガイドライン、障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン、認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインについて学ぶ。							
第11回	権利擁護活動で直面しうる法的諸問題		①インフォームドコンセント、②秘密・プライバシー・個人情報、③権利擁護活動度と社会の安全について学ぶ。							
第12回	権利擁護に関わる組織、団体、専門職		家庭裁判所、法務局、市町村、社会福祉協議会、権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関、弁護士、司法書士について学ぶ。							
第13回	成年後見制度(1)		①成年後見制度の概要(法定後見、任意後見、専門職後見)、②後見の概要(成年被後見人の行為能力、成年後見人の役割)、③保佐の概要(被保佐人の行為能力、保佐人の役割)、④補助の概要(補助人の役割)について学ぶ。							
第14回	成年後見制度(2)		①任意後見の概要、②成年後見制度の最近の動向、③成年後見制度利用支援事業、④日常生活自立支援事業とその連携について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度20%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後 学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材 教科書 参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『権利擁護を支える法制度』中央法規、参考書として『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	社会福祉学特講E (コンソーシアム)		科目コード	W21060	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-BFCB0-05						
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	(コンソーシアム)				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 2-2, 5-1に関連する。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	別 紙 掲 載									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意点										

科目名	社会福祉学特講A (子ども・家庭・社会)		科目コード	W21056	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-06	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	川村 泰弘				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 子ども、家庭、社会の現状と課題を取り上げ、子どもの福祉に関する基礎的理解を図るとともに、養護の必要な子どもや児童虐待、不登校、いじめなど、特別な支援を必要とする子どもについての理解と支援のあり方を考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>子どもに関する様々な条約等の「子ども観」に触れながら、「子どもの人権」について説明することができる。</li> <li>子どもの成長に及ぼす「あそび」や「映像メディア」の影響について説明することができる。</li> <li>子育てに果たす家庭や保育所、幼稚園、地域社会の現状と役割について説明することができる。</li> <li>特別な支援を必要とする子どもたちの概況と支援について自分の考えを述べるすることができる。</li> <li>家庭支援に関するソーシャルワークや家庭療法の概要を説明することができる。</li> </ol>									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	子どもの発見と子どもの権利		大人社会における子どもの存在をどう捉えるかという子ども観の変遷と社会の動きについて学ぶ。							
第2回			児童憲章や子どもの権利条約をはじめとする「子ども」の基本的な権利保障について学ぶ。							
第3回	外遊びや自然遊びと子どもの発達		集中力や発想力、自己肯定感、コミュニケーション力など、子どもの成長に必要な諸能力の育成に影響を及ぼす外遊びや自然体験活動について学ぶ。							
第4回	電子メディアが及ぼす子どもへの影響		電子メディアへの接触が、健全な愛着行動の獲得に果たす親子の相互作用をはじめとする成長と発達に必要な時間を奪っていることを認識し、その対応策を考える。						ディスカッション 小レポート	
第5回	地域社会と子ども		子どもの成長、発達の場として大きな役割を果たしてきた地域社会の育児機能が低下していることを踏まえ、家庭の子育てを支える地域社会のあり方を考える。							
第6回	家庭、家族と子ども		児童福祉において家庭支援が強調される背景と現代社会における家族状況について学ぶ。							
第7回	保育所、認定こども園と学童保育		乳幼児期や学童期の子どもとその家族を支える保育所や認定こども園と、いわゆる学童保育の現状と課題について学ぶ。						ディスカッション 小レポート	
第8回	特別な支援を必要とする子どもの理解		いじめ、不登校、児童虐待の概況と支援の現状について学ぶ。						ディスカッション	
第9回			社会的養護の場で生活している子どもたちの存在と、そのような場である「家庭養護」や「施設養護」の現状と課題について学ぶ。						ディスカッション	
第10回			非行の概況と非行少年に対する社会的対応につて、概況と課題を学ぶ。						ディスカッション	
第11回			母子家庭、父子家庭といったひとり親家庭の概況とその支援並びに母子保護施策の現状と課題を学ぶ。						ディスカッション 小レポート	
第12回	子ども福祉関連法、制度と関連機関		子ども福祉関連法、制度の概要と関連機関、施設の主な役割と活動を理解するとともに、児童福祉に関わる職員の倫理について考える。							
第13回	福祉的アプローチ		社会的資源を活かして、問題を抱える家族に対する支援を行うソーシャルワーク的なアプローチを学ぶ。							
第14回	心理的アプローチ		円環的因果律とシステム論からクライアントの問題を考える家族療法を学ぶ。						ディスカッション 小レポート	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめを行う。							
評価 方法 及び 評価 基準	レポート（40％）、試験（30％）、授業への参加度（30％）									
課題等	授業の区切りに行う小レポート									
事前事後 学修	事前：次時のテーマについて、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材 教科書 参考書	教科書：随時、資料を配布する。									
留意点	授業内容に関連する報道等に関心を持ち、事象に対する自分の考えを述べるように学びを深めてください。									

科目名	社会福祉学特講B (障害と発達)		科目コード	W21057	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-07	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	川村 泰弘				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕  国際生活機能分類による障害のとらえ方、「障害者」の法的定義、生涯発達の視点に立った代表的な発達理論、認知・社会性の発達等に関する基礎知識、障害理解と基本的なかかわり方等について、講義形式による学びを深め、福祉実践力の基礎を養う。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。									
到達 目標	1 WHOの国際生活機能分類（ICF）の考え方について説明することができる。 2 我が国における障害者の法的定義について、主な法律ごとに整理し、表にまとめることができる。 3 発達の概念、発達段階などの発達の基本概念と主要な発達理論を理解し、その要点をまとめることができる。 4 身体障害者福祉法等で規定される障害について、「発達」との関連を踏まえてその障害特性と基本的な支援のあり方を説明することができる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	「障害がある」ということ		学習内容、学習の進め方等について説明する。 I C F（国際生活機能分類）における障害のとらえ方を理解する。							
第2回	法律による障害者の定義		我が国の障害者に係る主な法律による障害者の定義を知る。							
第3回	障害者福祉の基本理念		障害者福祉の基本理念となるノーマリゼーションとインクルージョンの成立過程と基本的な考え方を理解する。						ディスカッション 小レポート	
第4回	生涯発達の視点と発達課題		発達の概念の基本的事項、発達のとらえ方、発達に影響を及ぼす要因などを理解する。							
第5回			乳幼児期から青年期の発達段階と発達課題の概要を知る。							
第6回	知性・認知の発達の基礎知識		ピアジェの認知発達理論の基本的事項を理解する。 言語機能の発達と言語獲得理論の概要を学ぶ。							
第7回	社会性の発達の基礎知識		愛着や道徳性の発達、向社会的報道の発達の概要を理解する。						ディスカッション 小レポート	
第8回	記憶と知能の基礎知識		記憶の仕組みと機能、メタ認知と記憶方略の基礎を理解する。 知能の概念と定着、知能の測定と評価の基礎を知る。							
第9回	障害の理解と基本的な支援のあり方		視覚障害・聴覚障害・言語障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。						ディスカッション	
第10回			肢体不自由の理解と基本的な支援の仕方を知る。						ディスカッション	
第11回			内部障害（心臓・呼吸器・腎臓・直腸機能・小腸・H I Vによる免疫障害・肝臓機能）の特徴の理解と基本的な支援の仕方を知る。						ディスカッション小 レポート	
第12回			知的障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。						ディスカッション	
第13回			精神障害、高次脳機能障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。						ディスカッション	
第14回			発達障害の理解と基本的な支援の仕方を知る。						ディスカッション小 レポート	
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめを行う。							
評価 方法 及び 評価 基準	レポート（40%）、試験（30%）、授業への参加度（30%）									
課題等	授業の区切りに行う小レポート									
事前事 後学修	事前：次時のテーマについて、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材 教科書 参考書	教科書：随時、資料を配布する。 参考書：内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎編（2016） 「Next 教科書シリーズ 発達と学習」弘文堂 ISBN:978-4335002441									
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「発達」「障害」への関心を深めてください。									

科目名	社会福祉学特講C (老化と生体)		科目コード	W21058	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-08	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	田中 真実				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 体の基本構造を学ぶ。iPS細胞の研究を学ぶ。ヒトの体の様々な機能が加齢によって変化することを学ぶ。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトのからだの加齢現象を学ぶことができる。</li> <li>・ヒトのからだの生理機能を学ぶことができる。</li> <li>・上手に老いることの必要性を学ぶことができる。</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	体のしくみ 1			ガイダンス、細胞と組織の概要 (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第2回	体のしくみ 2			消化吸収 (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第3回	iPS細胞の研究 1			iPS細胞について、「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学 iPS細胞研究所」(DVD視聴)						
第4回	iPS細胞の研究 2			冠縮性狭心症患者由来iPS細胞を用いた病態の解明(弘前大学医学研究科で行っている研究)、「夢の扉+」iPS細胞で最先端治療 ミニ肝臓 (DVD)						
第5回	老化と寿命のしくみ 1			老化のナゾを解くための基礎知識 (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第6回	老化と寿命のしくみ 2			細胞は生命の「回数券」をもっている (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第7回	老化と寿命のしくみ 3			活性酸素による傷が老化をひきおこす、水素と酸化ストレス (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第8回	老化と寿命のしくみ 4			コラーゲンと老化の深い関係 (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第9回	老化と寿命のしくみ 5			個体の寿命を支配するものは何か、老化抑制のカギを握る「オートファジー」 (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第10回	老化と寿命のしくみ 6			いろいろな器官の老化とその対策① (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第11回	老化と寿命のしくみ 7			いろいろな器官の老化とその対策② (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第12回	老化と寿命のしくみ 8			老化を早めないライフスタイル① (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第13回	老化と寿命のしくみ 9			老化を早めないライフスタイル② (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第14回	老化と寿命のしくみ 10			日本人の寿命 (WEBを視聴し理解を深める)					ディスカッション	
第15回	老化と寿命のしくみ 11			まとめ、課題レポート						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価 (100%)。60% (60点) 以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題等	レポート課題はTeamsにより提出する。									
事前事 後学修	事前学修 (60分) : 講義概要および授業全体の流れを確認しておく、事後学修 (120分) : 授業の内容を振り返り、学修ポイントを復習する。									
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布する。									
留意点	普段から老化と寿命について興味をもち、新聞や雑誌の健康および生活欄を見ること。									

科目名	社会福祉学特講D (現代の生活問題)		科目コード	W21059	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB1-09						
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 主として「公的扶助論」の学修を補う目的のもので、普段何気なく過ごしている「生活」を巡る様々な問題を、様々な角度から取り上げ、理解を深める。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 5-1に関連する。									
到達 目標	「生活」を巡る諸問題を構造的に把握、理解し、社会福祉の制度や実践が果たす役割や限界の理解に繋ぐことを目標とする。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	導入①			現代の「生活」問題～「生活」に焦点を当てる意義						
第2回	導入②			「現代」の生活問題～「現代」に焦点を当てる意義						
第3回	テーマ1：貧困問題①			見える貧困・見えない貧困						
第4回	テーマ1：貧困問題②			貧困論の系譜①～ブース、ラウントリー						
第5回	テーマ1：貧困問題③			貧困論の系譜②P・タウンゼント						
第6回	テーマ1：貧困問題④			貧困論の系譜③～「相対的貧困」論						
第7回	テーマ1：貧困問題⑤			貧困論の系譜④～A・セン、ヌスパウム						
第8回	テーマ1：貧困問題⑥			現代日本の貧困問題						
第9回	テーマ2：格差と法①			現代社会の格差問題						
第10回	テーマ2：格差と法②			性別と格差						
第11回	テーマ2：格差と法③			教育と格差						
第12回	テーマ2：格差と法④			障害と格差						
第13回	テーマ2：格差と法⑤			年齢と格差						
第14回	テーマ2：格差と法⑥			健康と格差						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみで評価する。									
課題等	特になし。									
事前事 後学修	特に事後学修に関して、指示された文献等の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特になし。									
留意点	しっかりした問題意識を持たないと、履修は難しいだろう。随時、グループワークやディスカッションを行う。									

科目名	大学生のための ソーシャルスキル		科目コード	W21022	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB2-14						
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	松本 郁代・坂井 任			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ソーシャルスキルを定義したうえで、社会の中で生きていく際に必要とされる問題解決方法や対処の仕方について講義する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 4-1, 5-3に関連している。									
到達 目標	社会性を身につけた、当たり前前の人になること。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ソーシャルスキルとは何か		講義計画、ソーシャルスキルの定義							
第2回	ソーシャルスキルの基礎知識		ソーシャルスキルと対人関係、大学生活における対人関係							
第3回	7つの基本的なソーシャルスキル		ノンバーバルコミュニケーションとは							
第4回	真似したいノンバーバルな要素		ノンバーバルコミュニケーション攻略法					パーソナル・スペース の測定		
第5回	真似したくないコミュニケーション		コミュニケーション禁句集							
第6回	良い話相手になる為のスキル		自慢話だけではないコミュニケーション							
第7回	良い聴き手になる為のスキル		聞くだけではないコミュニケーション							
第8回	つまずいた時のソーシャルスキル		人間関係に悩む時、友人からのサポートを受けたい時							
第9回	リアクションは、社会人の第一歩		教職員とのコミュニケーションの注意点							
第10回	報告は、社会人の基本		講義受講のマナーと相談後のデューティー							
第11回	挨拶が出来ますか		研究室を訪れる時のマナー							
第12回	ハラスメントの基礎知識		学生から教員へのハラスメント？							
第13回	危険回避のためのソーシャルスキル		不当請求・架空請求・不法侵入の危険回避							
第14回	情報リテラシーのためのスキル		インターネット・コミュニケーションにおけるソーシャルスキル							
第15回	社会人になるためのソーシャルスキル		面接のテクニックだけで就職できるのか？							
評価 方法 及び 評価 基準	各講義における小テスト（短答式・客観式）を積み上げて、評価する。									
課題等	それぞれの時間に指示をする。									
事前 事後 学修	指示した持参物の準備をすること。									
教材 教科書 参考書	橋本 剛（2008）『ライブラリー ソーシャルスキルを身につける 5——大学生のためのソーシャルスキル』 ISBN: 978-4-7819-1183-0									
留意点	私語・遅刻厳禁。講義に出席する学生として、この二つは最低限のルール。坂井担当部分については、6月頃に予定しているが、詳細は講義中に知らせる。									

科目名	英語 I A		科目コード	W24010	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCBO-15.S						
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	奥野 忠徳			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。 会話で必要となる文法力と語彙力を徹底的にトレーニングで鍛えます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	introduction			この授業で行うことへの導入				講義		
第2回	使える文法・英語特訓 (1)			現在進行形、英文の特訓(1)				講義		
第3回	使える文法・英語特訓 (2)			現在単純形、英文の特訓(2)				講義		
第4回	使える文法・英語特訓 (3)			現在進行形と単純形を使い分ける、英文の特訓(3)				講義		
第5回	使える文法・英語特訓 (4)			過去単純形、英文の特訓(4)				講義		
第6回	使える文法・英語特訓 (5)			過去進行形、英文の特訓(5)				講義		
第7回	使える文法・英語特訓 (6)			現在完了形(1)、英文の特訓(6)				講義		
第8回	使える文法・英語特訓 (7)			現在完了形(2)、英文の特訓(7)				講義		
第9回	使える文法・英語特訓 (8)			現在完了形(3)、英文の特訓(8)				講義		
第10回	使える文法・英語特訓 (9)			現在完了進行形、英文の特訓(9)				講義		
第11回	使える文法・英語特訓 (10)			haveとhave got、英文の特訓(10)				講義		
第12回	使える文法・英語特訓 (11)			used to構文、英文の特訓(11)				講義		
第13回	使える文法・英語特訓 (12)			進行形の未来用法(1)、英文の特訓(12)				講義		
第14回	使える文法・英語特訓 (13)			進行形の未来用法(2)、英文の特訓(13)				講義		
第15回	使える文法・英語特訓 (14)			be going toと進行形の未来用法の使い分け、英文の特訓(14)				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果(60点)、期末試験(40点)で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事 後学修	事後復習は必要です。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。									

科目名	英語 I B		科目コード	W24011	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目がバリエーション	W-BFCBO-16.S						
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	奥野 忠徳			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 簡単な表現を用いて日常生活を英語で表現する訓練を徹底的に行います。 会話が必要となる文法力と語彙力を徹底的にトレーニングで鍛えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
	到達 目標	場面に即した内容を英語で即座に話せるようになる技術を身につけます。								
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	introduction		導入、willとshall(1)、英文の特訓(1)					講義		
第2回	使える文法・英語特訓(1)		willとshall(2)、英文の特訓(2)					講義		
第3回	使える文法・英語特訓(2)		willとbe going toの使い分け、英文の特訓(3)					講義		
第4回	使える文法・英語特訓(3)		英語の未来表現の総復習(1)、英文の特訓(4)					講義		
第5回	使える文法・英語特訓(4)		英語の未来表現の総復習(2)、英文の特訓(5)					講義		
第6回	使える文法・英語特訓(5)		ifとwhen(1)、英文の特訓(6)					講義		
第7回	使える文法・英語特訓(6)		ifとwhen(2)、英文の特訓(7)					講義		
第8回	使える文法・英語特訓(7)		can(1)、英文の特訓(8)					講義		
第9回	使える文法・英語特訓(8)		can(2)、英文の特訓(9)					講義		
第10回	使える文法・英語特訓(9)		mustとmay(1)、英文の特訓(10)					講義		
第11回	使える文法・英語特訓(10)		mustとmay(2)、英文の特訓(11)					講義		
第12回	使える文法・英語特訓(11)		have toとmustの使い分け、英文の特訓(12)					講義		
第13回	使える文法・英語特訓(12)		should(1)、英文の特訓(13)					講義		
第14回	使える文法・英語特訓(13)		should(2)、英文の特訓(14)					講義		
第15回	使える文法・英語特訓(14)		should(3)、英文の特訓(15)					講義		
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果(60点)、期末試験(40点)で評価します。 簡単な英語での会話が正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。									
課題等	特にありません。									
事前事 後学修	事後復習は必要です。									
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。									
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。									

科目名	英語 I C		科目コード	W24012	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-17.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	澤田 真一				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	導入			イントロダクション						
第2回	ディスカッション			なぜ英語を勉強するのか					グループワーク、 ディスカッション	
第3回	コミュニケーション1			自己表現						
第4回	コミュニケーション2			自己表現						
第5回	ライティング1			英語で詩を書く						
第6回	ライティング2			詩の鑑賞・説明						
第7回	ビデオ			鑑賞						
第8回	ディスカッション			スクリプトの読解					グループワーク、 ディスカッション	
第9回	コミュニケーション3			写真を用いた家族の紹介					グループワーク、 ディスカッション	
第10回	リーディング1			ノン・フィクション						
第11回	リーディング2			ノン・フィクション						
第12回	リーディング3			ノン・フィクション						
第13回	スピーチ1			英語での弁論						
第14回	スピーチ2			英語での弁論						
第15回	試験			まとめと試験						
評価 方法 及び 評価 基準	言語活動20%、パーティシペーション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができているかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題を出します。									
課題等	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらいます。準備学習時間の目安：1日当たり30分程度。									
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書	授業時にプリントを配布します。									
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	英語 I D		科目コード	W24013	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-18.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	澤田 真一				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕									
	英語で読む、書く、聞く、話すことを通じて、自己表現の方法を学びます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	英語を好きになる。英語の構造に注意を払いながら、正しく読めるようになる。英語を使って自己表現ができるようになる。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	導入		イントロダクション							
第2回	コミュニケーション1		対話の仕方						グループワーク、 ディスカッション	
第3回	コミュニケーション2		対話の仕方						グループワーク、 ディスカッション	
第4回	ライティング1		英語で物語を書く							
第5回	ライティング2		エディティング							
第6回	ライティング3		物語の鑑賞・説明						グループワーク、 ディスカッション	
第7回	ビデオ		鑑賞							
第8回	ディスカッション		スクリプトの読解						グループワーク、 ディスカッション	
第9回	コミュニケーション3		本の紹介						グループワーク、 ディスカッション	
第10回	リーディング1		フィクション							
第11回	リーディング2		フィクション							
第12回	リーディング3		フィクション							
第13回	スピーチ1		英語での弁論							
第14回	スピーチ2		英語での弁論							
第15回	試験		まとめと試験							
評価 方法 及び 評価 基準	言語活動20%、パーティシペーション・ポイント20%、期末試験60% 到達目標に照らし合わせ、自発的に正しい英語で自己表現ができてくるかを重視します。試験では、講義で扱った教材についての文法・読解問題と、自分の考えを述べるエッセー問題を出します。									
課題等	課題等は次時間に返却しますが、不十分な場合は再提出とします。									
事前事 後学修	授業で事前に配布するプリントは必ず読んでから参加してもらいます。準備学習時間の目安：1日当たり30分程度。授業時にプリントを配布します。									
教材 教科書 参考書										
留意点	何よりも学生の自主性を重視します。									

科目名	ドイツ語A		科目コード	W24014	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-19.S		30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	① ドイツ語で挨拶ができる。 ② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	0課 発音の基礎(1)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(1)							
第2回	0課 発音の基礎(2)		挨拶表現を使って、ドイツ語のつづりと発音の関係を学ぶ(2)							
第3回	1課 名前、住まい、出身、身分(1)		公的な場面で相手と話す・自己紹介する							
第4回	1課 名前、住まい、出身、身分(2)		親しい間柄の相手と話す・自己紹介する							
第5回	2課 簡単な質問に答える(1)		「はい」「いいえ」を使って答える							
第6回	2課 簡単な質問に答える(2)		「はい」「いいえ」を使わないで答える							
第7回	3課 買い物をする(1)		数詞を学ぶ。値段を尋ねる・答える。時刻(1)いま何時ですか?							
第8回	3課 買い物をする(2)		店に入って買い物をする							
第9回	4課 身の回りの物について話す(1)		身近な単語を会話に取り入れる(1)							
第10回	4課 身の回りの物について話す(2)		身近な単語を会話に取り入れる(2)							
第11回	5課 身近な人について話す		身近な人を話題に登場させる							
第12回	5課 電話をかける/友達を誘う		誘いかけの表現に慣れる							
第13回	6課 カフェで注文する		カフェで、何を注文するか友達と相談し、実際に注文する							
第14回	総復習(1~6課)		プリントを使って学習した内容を総復習							
第15回	まとめ(1~6課)		学習内容の総仕上げ							
評価 方法 及び 評価 基準	・期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・授業への参加度を重視します。									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前事 後学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書は「ドイツ語インフォメーション neu <sup>2</sup> 」(朝日出版社)[ISBN978-4-255-25358-9] 辞書には「やさしい!ドイツ語の学習辞典」(同学社)[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。									
留意点	ドイツ語 B と共通教科書を使い連携して理解を深めます。 授業への参加度重視。積極的に授業に参加しましょう。									

科目名	ドイツ語B		科目コード	W24015	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナパリング	W-BFCB0-20.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] [キーワード：聞く、話す、書く]ドイツ語の基礎的な運用能力（聞く、話す、書く）を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成</li> <li>・基礎的なドイツ語文法の習得</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	つづりと発音 (1)		アルファベットと簡単な挨拶							
第2回	つづりと発音 (2)		母音と子音、数の読み方							
第3回	タナカマコトと申します (1)		1課：テキストとパートナー練習							
第4回	タナカマコトと申します (2)		1課：練習問題と演習							
第5回	何をしているの？ (1)		2課：テキストとパートナー練習							
第6回	何をしているの？ (2)		2課：練習問題と演習							
第7回	その帽子はいくらですか？ (1)		3課：テキストとパートナー練習							
第8回	その帽子はいくらですか？ (2)		3課：練習問題と演習							
第9回	コーヒーを一杯ください (1)		4課：テキストとパートナー練習							
第10回	コーヒーを一杯ください (2)		4課：練習問題と演習							
第11回	こちらザビーネです (1)		5課：テキストとパートナー練習							
第12回	こちらザビーネです (2)		5課：練習問題と演習							
第13回	何を注文する？ (1)		6課：テキストとパートナー練習							
第14回	何を注文する？ (2)		6課：練習問題と演習							
第15回	まとめ		前期の総まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度、及び定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度（平常点）50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試みます。</p>									
課題等	それぞれの課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復習します。									
事前 事後 学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	<p>「ドイツ語インフォメーション neu<sup>2</sup>」（朝日出版社）[ISBN978-4-255-25358-9]を教科書として使います。 「やさしい！ドイツ語の学習辞典」（同学社）[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。</p>									
留意点	ドイツ語Aと共通教科書を使い、連携して理解を深めます。新しいことに挑戦するつもりで楽しんで積極的に参加してください。									

科目名	ドイツ語C		科目コード	W24016	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目名パブリック		科目コード	W-BFCBO-21.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 ドイツ語圏の文化を知り、ドイツ語でコミュニケーションする。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	① ドイツ語で挨拶ができる。 ② ドイツ語で自己紹介や簡単なコミュニケーションができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	思い出そう！		前期に学んだドイツ語を復習する							
第2回	6課 わたしは(を)？		僕は君を愛している。君は僕を愛している？							
第3回	7課 道を尋ねる・教える(1)		道案内に役立つ表現を学ぶ(1)							
第4回	7課 道を尋ねる・教える(2)		道案内に役立つ表現を学ぶ(2)							
第5回	8課 ニュアンスを付け加える方法(1)		～できる、～せねばならない、などニュアンス表現を学ぶ							
第6回	8課 ニュアンスを付け加える方法(2)		～したいのですが、～してもよいですか？などニュアンス表現を学ぶ							
第7回	9課 ユニークな動詞・命令文		ユニークな動詞を使ってドイツ語の語順を理解する							
第8回	9課 何時に～する		時刻を尋ねる(2)							
第9回	10課 上等なワイン・ワインは上等だ		「上等な」(形容詞)の注意点							
第10回	10課「自分」表現・友達を誘う表現		「自分」(sich)・相手の趣味や好きなことを尋ねる							
第11回	11課、12課 過去を表現する(1)		過去のことを話す(1)							
第12回	11課、12課 メール、カードを書く		クリスマスや新年の挨拶を学び、クリスマスカードを書く							
第13回	11課、12課 過去を表現する(2)		過去のことを話す(2)							
第14回	総復習(6課～12課)		プリントを使って学習した内容を総復習							
第15回	まとめ(6課～12課)		学習内容の総仕上げ							
評価 方法 及び 評価 基準	・ 期末試験50%、授業への参加度50%で総合的に評価します。 ・ 授業への参加度を重視します。									
課題等	各講義の終わりに、次回のための課題があれば連絡します。									
事前 事後 学修	学習したドイツ語表現を繰り返し発音して覚えましょう。									
教材 教科書 参考書	教科書は「ドイツ語インフォメーション neu <sup>2</sup> 」(朝日出版社) [ISBN978-4-255-25358-9] 辞書には「やさしい!ドイツ語の学習辞典」(同学社) [ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。									
留意点	ドイツ語Dと共通教科書を使い連携して理解を深めます。授業への参加度重視。積極的に授業に参加しましょう。									

科目名	ドイツ語D		科目コード	W24017	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目名パブリック	W-BFCB0-22.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	田中 寿子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] [キーワード：聞く、話す、書く]ドイツ語の基礎的な運用能力(聞く、話す、書く)を養う。 ドイツ語の学習をとおして、ドイツ人のものの考え方やドイツ文化の一端に触れる。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごく簡単な日常会話ができる程度のドイツ語コミュニケーション能力の養成</li> <li>・基礎的なドイツ語文法の習得</li> </ul>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期復習		復習とコミュニケーション演習							
第2回	市庁舎へはどう行きますか？ (1)		7課：テキストとパートナー練習							
第3回	市庁舎へはどう行きますか？ (2)		7課：練習問題と演習							
第4回	ホテルには歩いて行けますか？ (1)		8課：テキストとパートナー練習							
第5回	ホテルには歩いて行けますか？ (2)		8課：練習問題と演習							
第6回	列車は何時に出るの？ (1)		9課：テキストとパートナー練習							
第7回	列車は何時に出るの？ (2)		9課：練習問題と演習							
第8回	音楽に興味があります (1)		10課：テキストとパートナー練習							
第9回	音楽に興味があります (2)		10課：練習問題と演習							
第10回	とてもよかった！ (1)		11課：テキストとパートナー練習							
第11回	とてもよかった！ (2)		11課：練習問題と演習							
第12回	おいしかった！ (1)		12課：テキストとパートナー練習							
第13回	おいしかった！ (2)		12課：練習問題と演習							
第14回	総復習		復習とコミュニケーション演習							
第15回	まとめ		後期の総まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度、及び定期試験を総合的に評価します。 授業への参加度(平常点)50% 定期試験 50% 定期試験では、基礎的な課題の理解度・習得度を試みます。</p>									
課題等	それぞれの課で学習したキーセンテンスを覚えてくる。つぎの時間の初めに、覚えてきたキーセンテンスを復習します。									
事前事 後学修	新しい課に入る前に、CDでテキストを聞いてくる。各課の終わった後には、CDで「練習問題」を聞いて解答を確認しておく。									
教材 教科書 参考書	<p>「ドイツ語インフォメーション neu<sup>2</sup>」(朝日出版社)[ISBN978-4-255-25358-9]を教科書として使います。 「やさしい! ドイツ語の学習辞典」(同学社)[ISBN978-4-8102-0005-8]を推薦します。</p>									
留意点	ドイツ語Cと共通教科書を使い、連携して理解を深めます。新しいことに挑戦するつもりで楽しんで積極的に参加してください。									

科目名	フランス語A		科目コード	W24018	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-23.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	松山 和子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけではなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	フランス語で自己紹介・他己紹介ができるようになる！									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	挨拶と教室で使う表現		フランス語のアルファベット・発音と綴り字・挨拶						グループワーク	
第2回	名前・国籍、元気かどうかを聞く①		第1課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第3回	名前・国籍、元気かどうかを聞く②		第1課：前回の学習内容の復習→応用と実践（名前、国籍、元気かどうかを尋ねたり、答えたりする）						グループワーク	
第4回	職業、住んでいるところを言う①		第2課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第5回	職業、住んでいるところを言う②		第2課：前回の学習内容の復習→応用と実践（職業、住んでいるところを言う）						グループワーク	
第6回	話す言語①		第3課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第7回	話す言語②		第3課：前回の学習内容の復習→応用と実践（話せる言語と話せない言語について）						グループワーク	
第8回	持ち物、兄弟姉妹、年齢について言う①		第4課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第9回	持ち物、兄弟姉妹、年齢について言う②		第4課：前回の学習内容の復習→応用と実践（持っているもの・いないもの、兄弟姉妹の有無、年齢について話す）						グループワーク	
第10回	人物描写①		第5課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第11回	人物描写②		第5課：前回の学習内容の復習→応用と実践（人について説明する）						グループワーク	
第12回	これは何ですか？ ～はどこですか？①		第6課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第13回	これは何ですか？ ～はどこですか？②		第6課：前回の学習内容の復習→応用と実践（物や場所について尋ねたり、答えたりする）						グループワーク	
第14回	前期の復習①		自己紹介文を作り発表						プレゼンテーション	
第15回	前期の復習②		他己紹介文を作り発表						プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題（宿題）出された場合は、定められた期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前 事後 学修	毎回きちんと復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新装 カフェ・フランセ』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語B		科目コード	W24019	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目名パブリック	W-BFCBO-24.S		30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	松山 和子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 フランス語の基本要素や特徴を知り、日本語や英語との違いを比較しながら、コミュニケーション・ツールとしてのフランス語を身につけます。また、フランス語圏の文化や歴史、日常生活にも触れ、旅先で使うことだけでなく、日本を訪れるフランス語圏の人々との交流も視野に入れ、実践的な授業を行います。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	フランス語で簡単な会話ができるようになる！									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	好きなもの・嫌いなもの①		第7課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第2回	好きなもの・嫌いなもの②		第7課：前回の学習内容の復習→応用と実践（好き嫌いについて話す）						グループワーク	
第3回	天気と服装①		第8課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第4回	天気と服装②		第8課：前回の学習内容の復習→実践と応用（どんな天気か、何を身に着けているかについて話す）						グループワーク	
第5回	朝ごはん・スポーツ①		第9課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第6回	朝ごはん・スポーツ②		第9課：前回の学習内容の復習→応用と実践（食べ物やスポーツについて話す）						グループワーク	
第7回	～へ行きましょう！①		第10課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第8回	～へ行きましょう！②		第10課：前回の学習内容の復習→応用と実践（行くところ、行きたいところについて話す）						グループワーク	
第9回	起きる時間・寝る時間①		第11課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第10回	起きる時間・寝る時間②		第11課：前回の学習内容の復習→応用と実践（平日にすること）						グループワーク	
第11回	起きる時間・寝る時間③		第11課：前回の学習内容の復習→応用と実践（休日にすること）						グループワーク	
第12回	人についての情報を得る①		第12課：本文音読・内容確認・文法のポイント→発音練習・例文と表現						グループワーク	
第13回	人についての情報を得る②		第12課：前回の学習内容の復習→応用と実践（有名人について話す）						グループワーク	
第14回	後期の復習①		日常生活について話す						プレゼンテーション	
第15回	後期の復習②		休暇の過ごし方について話す						プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%（グループワークや課題等への取り組み方を評価します）。定期試験50%（試験は口頭発表ですので、フランス語による表現力が評価されます）。									
課題等	課題（宿題）が出された場合は、定められた期限内に提出してください。次時間以降の授業時に返却します。									
事前事後 学修	毎回きちんと復習をし、次回の授業に備えてください。									
教材 教科書 参考書	『新装 カフェ・フランセ』 朝日出版社 ISBN 978-4-255-35262-6 C1085									
留意点	双方向的な授業形態を採っていますので、質問や意見交換等は大いに歓迎します。									

科目名	フランス語C		科目コード	W24020	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-BFCB0-25.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスペルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	①外国語に苦手意識がある場合はその解消をし、他者や他国のことを知る楽しさに目覚める。 ②自分や周りの人について、平易なフランス語で説明できる。 ③②に必要なフランス語の基礎的文法知識や発音の規則を学ぶ。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	あいさつの表現、アルファベ		授業内容の説明→簡単なあいさつ、自分の名前とスペルをアルファベで言える					グループワーク		
第2回	主語人称代名詞、他者の名前を言う		他者の名前とそのスペルをアルファベで言う(アルファベの暗記)					ペアワーク		
第3回	国籍の女性形		自分や他者の国籍を言う/国籍の女性形の作り方を理解する							
第4回	動詞 être 活用		動詞 être を使って国籍や出身地を言う/être用法確認					プレゼンテーション		
第5回	職業の女性形		職業の女性形の作り方理解→口頭練習、1~5回総復習					グループワーク		
第6回	第一群規則動詞(1)		話せる言語と居住地を言う/第一群規則動詞活用練習					グループワーク		
第7回	第一群規則動詞(2)		第一群規則動詞の正しい発音→問題演習							
第8回	否定形の作り方		話せる言語と話せない言語を言う/否定形					ペアワーク		
第9回	動詞 avoir 活用		動詞 avoir を使って自分や他者の年齢を言う					ペアワーク		
第10回	名詞の性と不定冠詞		動詞 avoir を使って兄妹構成を言う→10回までに学んだ表現を使って自己紹介する→問題演習					プレゼンテーション		
第11回	形容詞の性の一致/形容詞の位置(原則)		自分の外見や性格を描写する/形容詞の性の一致、形容詞を置く位置(原則)					ペアワーク		
第12回	形容詞の性数一致/形容詞の位置(例外)		他者の外見や性格を紹介する→問題演習で形容詞の性数一致のルールと形容詞の位置まとめ							
第13回	所有形容詞①「私の」		自分の家族(名前、続柄、職業、年齢)を紹介する					ペアワーク		
第14回	所有形容詞②「あなたの」「彼(女)の」		他者の家族構成を尋ねる、説明する					グループワーク		
第15回	前期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)									
課題等	文法事項の定着をはかるため適宜課される課題や小テストは次回授業に返却します。理解が不十分な場合は再テスト・再提出を課します。									
事前事後 学修	前回授業の復習を週当たり90分程度行い、出席して下さい。テキスト会話文の音読と文法事項の見直し(練習問題を再度解くなど)を推奨します。また授業で適宜紹介するフランス事情や文化の参考文献も紹介しますので、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。									
教材 教科書 参考書	ニコラ・ガイヤール他著 <i>Café Français Nouveau</i> 『新装 カフェ・フランセ』(朝日出版社) ISBN 978-4-255-35262-6 C1085 教科書準拠HP→ <a href="https://text.asahipress.com/text-web/france/cafefrançais/index.html">https://text.asahipress.com/text-web/france/cafefrançais/index.html</a>									
留意点	「フランス語A」と共通テキストを使い、連携して授業を行うことで理解を深めます。仏語のしくみをみなさん自身で発見できるよう配慮しますので、質問などの発言大歓迎。欠席した場合の授業内容や課題の有無に関する質問等連絡は右記の担当教師アドレスまで: lutetia_lutetia@yahoo.co.jp									

科目名	フランス語D		科目コード	W24021	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目名パブリック		科目コード	W-BFCB0-26.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	工藤 貴子			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]          仏語の基礎的会話表現の習得を目標とするもう一方の授業の助けとなるよう、この授業では身につけた表現に文法的な側面から説明を加え、多様な表現に応用できるようにします。また、正確な発音のためにスベルと音の密接な関係を理解して円滑な発話行為につなげます。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]          ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。</p>									
到達 目標	①外国語に苦手意識がある場合はその解消をし、他者や他国のことを知る楽しさに目覚める。 ② 自分や考えや行動について、平易なフランス語で説明できる。 ③ ②に必要なフランス語の基礎的文法知識や発音の規則を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期の復習、モノの位置を説明する		場所を表す語句をマスターし、位置を説明する口頭練習						ペアワーク	
第2回	好みを言う		第一群規則動詞 (aimer, adorer, préférer) 活用復習→好みを言う						ペアワーク	
第3回	定冠詞と不定冠詞の使い分け		好みを言う(復習)→不定冠詞と定冠詞の使い分け理解→問題演習							
第4回	比較級		比較級を用いて自分の意見を言う						グループワーク	
第5回	特殊な優等比較級、非人称構文		比較級の問題演習→天候を言う口頭練習							
第6回	動詞vouloir活用、部分冠詞(1)		不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の概念の理解							
第7回	動詞 prendre 活用、部分冠詞(2)		朝食のメニューを説明する							
第8回	動詞 faire 活用、部分冠詞の復習		するスポーツについて話す						ペアワーク	
第9回	動詞 aller 活用、前置詞と定冠詞の縮約(1)		行き先を言う						グループワーク	
第10回	前置詞と定冠詞の縮約(2)		前置詞と定冠詞の縮約(問題演習)							
第11回	複合過去(助動詞avoir)		過去分詞の作り方、週末を語る(1)							
第12回	複合過去(助動詞être)		過去分詞の性数一致、週末を語る(2)							
第13回	複合過去まとめ/時刻を尋ねる、言う(1)		複合過去問題演習→「時刻を尋ねる・言う」ための表現							
第14回	時刻を尋ねる、言う(2)		「～分」の注意すべき表現						ペアワーク	
第15回	後期まとめ		文法事項、発音とつづり字の規則を中心に総復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度(10%)、適宜行う小テストと課題の提出状況(10%)、期末試験(80%=内容理解を問うリスニング問題20~30%+文法知識を問う筆記問題70~80%)									
課題等	文法事項の定着をはかるため適宜課される課題や小テストは次回授業に返却します。理解が不十分な場合は再テスト・再提出を課します。									
事前事 後学修	前回授業の復習を過当たり90分程度行い、出席して下さい。テキスト会話文の音読と文法事項の見直し(練習問題を再度解くなど)を推奨します。また授業で適宜紹介するフランス事情や文化の参考文献も紹介しますので、それを読んで関心や理解を深めるようにしましょう。									
教材 教科書 参考書	ニコラ・ガイヤール他著 <i>Café Français Nouveau</i> 『新装 カフェ・フランセ』(朝日出版社) ISBN 978-4-255-35262-6 C1085 教科書準拠HP→ <a href="https://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html">https://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html</a>									
留意点	「フランス語C」と共通テキストを使い、連携して授業を行うことで理解を深めます。仏語のしくみをみなさん自身で発見できるよう配慮しますので、質問などの発言大歓迎。欠席した場合の授業内容や課題の有無に関する質問等連絡は右記の担当教師アドレスまで: lutetia_lutetia@yahoo.co.jp									

科目名	中国語 A		科目コード	W24022	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-27.S						
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	顧 偉良			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	中国語の基礎的文法、正確な発音、会話を身につけること。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	単母音、複母音の練習		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第2回	単母音、複母音の練習		単母音、複母音の特徴、発音の要領							
第3回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領							
第4回	子音の練習		子音の特徴、発音の要領							
第5回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第6回	鼻母音の練習		鼻母音の特徴、発音の要領							
第7回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第8回	人称代名詞、疑問助詞		我、你、他、她について例文をあげながら練習する							
第9回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する							
第10回	数字と量詞、疑問詞		助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する							
第11回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第12回	動詞文、副詞		動詞文、副詞について例文をあげながら練習する							
第13回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第14回	指示代名詞の使い方		这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する							
第15回	復習、まとめ		総合復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事 後学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり(文学部40名、社福学部10名)。									

科目名	中国語Ⅱ		科目コード	W24023	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバリング	W-BFCB0-28.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	顧 偉良				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	中国語の発音、基礎文法、基礎会話を身につけ、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	助動詞、反復疑問文		助動詞や文型について							
第2回	助動詞、反復疑問文		助動詞や文型について							
第3回	前置詞（介詞）、从、到、离		前置詞や文型について							
第4回	前置詞（介詞）、从、到、离		前置詞や文型について							
第5回	存在文”在”		存在文の文型について							
第6回	存在文”在”		存在文の文型について							
第7回	動態助詞”得”の使い方		助詞”得”の特徴について							
第8回	動態助詞”得”の使い方		助詞”得”の特徴について							
第9回	過去の経験を表す文型“过”		過去の経験を言い表す文型について							
第10回	過去の経験を表す文型“过”		過去の経験を言い表す文型について							
第11回	助動詞”打算”		助動詞”打算”の文型について							
第12回	助動詞”打算”		助動詞”打算”の文型について							
第13回	自己紹介の言い方		自己紹介に関する具体的な例文							
第14回	自己紹介の言い方		自己紹介に関する具体的な例文							
第15回	復習・まとめ		総合復習							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前 事後 学修	正しい発音の練習、中国語の文法特徴についての理解。少なくとも1日に30分練習が必要である。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり（文学部40名、社福学部10名）。									

科目名	中国語 C		科目コード	W24024	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目名がリング	W-BFCB0-29.S	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	顧 偉良				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	中国語の発音、基礎文法、基礎会話を身につけ、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	単母音、複母音の特徴			単母音、複母音の特徴						
第2回	単母音、複母音の特徴			単母音、複母音の特徴						
第3回	子音の特徴			子音の特徴、発音の要領						
第4回	子音の特徴			子音の特徴、発音の要領						
第5回	鼻母音の練習			鼻母音の特徴、発音の要領						
第6回	鼻母音の練習			鼻母音の特徴、発音の要領						
第7回	人称代名詞、疑問助詞			我、你、他、她について例文をあげながら練習する						
第8回	人称代名詞、疑問助詞			我、你、他、她について例文をあげながら練習する						
第9回	数字と量詞、疑問詞			助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する						
第10回	数字と量詞、疑問詞			助数詞などの使い方について例文をあげながら練習する						
第11回	動詞文、副詞			動詞文、副詞について例文をあげながら練習する						
第12回	動詞文、副詞			動詞文、副詞について例文をあげながら練習する						
第13回	指示代名詞の使い方			这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する						
第14回	指示代名詞の使い方			这个、那个、哪个、这里、那里、哪里について例文をあげながら練習する						
第15回	復習・まとめ			習った基礎文法や文型の復習						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前 事後 学修	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり(文学部40名、社福学部10名)。									

科目名	中国語D		科目コード	W24025	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナバ <sup>リ</sup> ン <sup>ク</sup>	W-BFCB0-30.S	時 間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	顧 偉良				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で67個になる。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	中国語の発音や基礎文法と基礎会話を身に着け、コミュニケーションの能力を高めるのが目標である。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	助動詞、反復疑問文			助動詞や文型について						
第2回	助動詞、反復疑問文			助動詞や文型について						
第3回	前置詞（介詞）、从、到、离			前置詞や文型について						
第4回	前置詞（介詞）、从、到、离			前置詞や文型について						
第5回	存在文”在”			存在文の文型について						
第6回	存在文”在”			存在文の文型について						
第7回	動態助詞”得”の使い方			動態助詞”得”の特徴について						
第8回	動態助詞”得”の使い方			動態助詞”得”の特徴について						
第9回	過去の経験を表す文型“过”			過去の経験を言い表す文型について						
第10回	過去の経験を表す文型“过”			過去の経験を言い表す文型について						
第11回	助動詞”打算”			助動詞”打算”について						
第12回	助動詞”打算”			助動詞”打算”について						
第13回	自己紹介の言い方			自己紹介に関する具体的な例文						
第14回	自己紹介の言い方			自己紹介に関する具体的な例文						
第15回	復習・まとめ			総合復習						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組み10% 発音テスト30%、筆記テスト60% 文法概念や語句の理解を前提に、中国語の文法に対する理解度を試す問題を出す。答案の構成や合理性を重点的に評価する。									
課題等	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
事前事 後学修	発音の練習や本文朗読で中国語の発音を身につける。発音段階では、ペアワークによりプレゼンテーションを行う。									
教材 教科書 参考書	教室で指示する。									
留意点	前期と後期、それぞれ六回以上欠席の場合、単位修得不可（公欠や病欠を除く）。前期を履修せず、後期からの履修を認めない。履修人数制限あり(文学部40名、社福学部10名)。									

科目名	韓国語A(a)(b)		科目コード	(a) W24026 (b) W24030	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-BFCB0-31.S	時間	30時間					
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 1級の韓国語の文法と単語を学びます。学んだ韓国語を読む、聞くようになります。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	① ハングルの読み書きができるようになります。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約26個の文法内容を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 1級に必要な約144個の単語を学びます。 ④ 韓国の文化を学びます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	韓国語入門①：韓国語とハングル		韓国文化の紹介、ハングルの歴史、ひらがなとハングルの違い							
第2回	韓国語入門②：韓国語とハングル		ハングルの読み方							
第3回	初級1-1：自己紹介		文法（은, 이다）							
第4回	初級1-2：家族		文法（이, 이 아니다）							
第5回	初級1-3：日常生活		文法（습니다, 을, 도）							
第6回	初級1-4：学校		文法（과, 하고, 의）							
第7回	初級1-5：天気1		文法（-어요, -지 않다）							
第8回	初級1-6：友だち		文法（에게, 한테, 만）							
第9回	初級1-7：位置		文法（(장소)에, 에서）							
第10回	初級1-8：日にち		文法（-었-, (시간)에）							
第11回	初級1-9：運動		文法（부터, -지 못하다）							
第12回	初級1-10：約束		文法（-을까, -읍시다, -고）							
第13回	初級1-11：食べ物		文法（-어서, -고 싶다）							
第14回	初級1-12：買い物1		文法（-지만, 보다）							
第15回	復習・まとめ		まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	① 単語テスト（25%） ② ワークブック（25%） ③ 筆記試験（50%）									
課題等	① ワークブックは白紙に答えだけを書いて、データで提出してください。 ② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。									
事前事 後学修	① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。単語集の単語を覚えてきてください。 ② 事後学修：教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組んでください。 ③ 必要な学修時間は週に3時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 入門（データで配布） ② オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級1 ISBN 979-11-85872-74-2（データで配布） ③ サイバー韓国語 初級1 ワークブック ISBN 979-11-6904-028-0(93710)（データで配布）									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。 ② 講義中やワークブックをする時は、絶対に翻訳機能を使わないようにしてください。									

科目名	韓国語B(a)(b)		科目コード	(a)W24027(b)W24031	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナバリング	W-BFCB0-32.S						
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 1 級の韓国語の表現と単語を学びます。学んだ韓国語を話すようになります。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	① ハングルの読み書きができるようになります。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な色々な状況においての韓国語の表現を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 144 個の単語を学びます。 ④ 韓国の文化を学びます。									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	韓国語入門：スピーキング			韓国文化の紹介、ハングルの読み方				グループワーク (会話、発表)		
第2回	初級 1-1：自己紹介			挨拶、自己紹介				グループワーク (会話、発表)		
第3回	初級 1-2：家族			家族の紹介、家族の職業の紹介				グループワーク (会話、発表)		
第4回	初級 1-3：日常生活			好きなもの、好きな食べ物				グループワーク (会話、発表)		
第5回	初級 1-4：学校			学校の紹介、教室の紹介				グループワーク (会話、発表)		
第6回	初級 1-5：天気 1			天気の表現、韓国の季節				グループワーク (会話、発表)		
第7回	初級 1-6：友だち			友だちについて話す、手紙				グループワーク (会話、発表)		
第8回	初級 1-7：位置			位置について話す、部屋の紹介				グループワーク (会話、発表)		
第9回	初級 1-8：日にち			週末にしたこと				グループワーク (会話、発表)		
第10回	初級 1-9：運動			好きなスポーツについて				グループワーク (会話、発表)		
第11回	初級 1-10：約束			提案、週末計画				グループワーク (会話、発表)		
第12回	初級 1-11：食べ物			メニューを決める				グループワーク (会話、発表)		
第13回	初級 1-12：買い物 1			プレゼントのおすすめ				グループワーク (会話、発表)		
第14回	復習・まとめ			スピーキングテストの練習				グループワーク (会話、発表)		
第15回	復習・まとめ			スピーキングテストの練習				グループワーク (会話、発表)		
評価 方法 及び 評価 基準	① 単語テスト (25%) ② 授業内発表 (25%) ③ スピーキングテスト (50%)									
課題等	① ワークブックは白紙に答えだけを書いて、データで提出してください。 ② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。									
事前 事後 学修	① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。講義で発表する台本を準備してください。 ② 事後学修：韓国語の動画(映画・ドラマなど)を毎週1時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。 ③ 必要な学修時間は週に3時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 入門(データで配布) ② オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級1 ISBN 979-11-85872-74-2 (データで配布) ③ サイバー韓国語 初級1 ワークブック ISBN 979-11-6904-028-0(93710) (データで配布)									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。 ② 本講義は会話中心の講義です。パートナーと話したり、発表したりすることが毎時間あります。									

科目名	韓国語C (a) (b)		科目コード	(a) W24028 (b) W24032	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-BFCB0-33. S		時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	ケン・テホ			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 1 級と 2 級の韓国語の文法と単語を学びます。学んだ韓国語を読む、聞くようになります。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	① 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 1 8 個の文法内容を学びます。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 1 4 4 個の単語を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 2 級に必要な約 1 2 個の文法内容を学びます。 ④ 国際通用韓国語標準教育課程 2 級に必要な約 6 3 個の単語を学びます。 ⑤ 韓国の文化を学びます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	前期の復習		初級 1-1 から 1 2 まで							
第2回	初級 1-1 3 : 趣味 1		文法 (-을 수 있다, -고 있다)							
第3回	初級 1-1 4 : 旅行		文法 (-기 전에, -으려고)							
第4回	初級 1-1 5 : 健康 1		文法 (-은 후에, -으세요)							
第5回	初級 1-1 6 : 交通		文法 (에서, 까지, -으십시오)							
第6回	初級 1-1 7 : 招待		文法 (-어야 되다, -고요)							
第7回	初級 1-1 8 : 余暇時間		文法 (-으니까, 으로)							
第8回	初級 1-1 9 : 方向		文法 (-으로, 이랑)							
第9回	初級 1-2 0 : 訪問		文法 (-으시-, 께서)							
第10回	初級 2-1 : 天気 2		文法 (-겠-, -네)							
第11回	初級 2-2 : 買い物 2		文法 (에게서, 한테서, -어 보다)							
第12回	初級 2-3 : 外見		文法 (-은, -는, 께)							
第13回	初級 2-4 : 買い物 3		文法 (-는데, -는 것)							
第14回	初級 2-5 : 注文		文法 (-을게, -기)							
第15回	復習・まとめ		まとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	① 単語テスト (25%) ② ワークブック (25%) ③ 筆記試験 (50%)									
課題等	① ワークブックは白紙に答えだけを書いて、データで提出してください。 ② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。									
事前 事後 学修	① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。単語集の単語を覚えてきてください。 ② 事後学修：教科書の各チャプタに対するワークブックに取り組んでください。 ③ 必要な学修時間は週に3時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級 1 ISBN 979-11-85872-74-2 (データで配布) ② サイバー韓国語 初級 1 ワークブック ISBN 979-11-6904-028-0 (93710) (データで配布) ③ オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級 2 ISBN 979-11-85872-75-9 (データで配布) ④ サイバー韓国語 初級 2 ワークブック ISBN 979-11-6904-029-7 (93710) (データで配布)									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。 ② 講義中やワークブックをする時は、絶対に翻訳機能を使わないようにしてください。 ③ 韓国語Aを履修せずに韓国語Cの履修は認めません。									

科目名	韓国語D(a)(b)		科目コード	(a) W24029 (b) W24033	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-BFCB0-34.S	時間	30時間					
区分	共通基盤科目	選択 必修	担当者名	ケン・テホ				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 国際通用韓国語標準教育課程 1 級と 2 級の韓国語の表現と単語を学びます。学んだ韓国語を話すようになります。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	① 国際通用韓国語標準教育課程 1, 2 級に必要な色々な状況における韓国語の表現を学びます。 ② 国際通用韓国語標準教育課程 1 級に必要な約 144 個の単語を学びます。 ③ 国際通用韓国語標準教育課程 2 級に必要な約 63 個の単語を学びます。 ④ 韓国の文化を学びます。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	初級 1-13 : 趣味 1		趣味について						グループワーク (会話、発表)	
第2回	初級 1-14 : 旅行		旅行計画について						グループワーク (会話、発表)	
第3回	初級 1-15 : 健康 1		健康症状について						グループワーク (会話、発表)	
第4回	初級 1-16 : 交通		目的地まで行く方法						グループワーク (会話、発表)	
第5回	初級 1-17 : 招待		家に招待する						グループワーク (会話、発表)	
第6回	初級 1-18 : 余暇時間		目的地まで行く方法						グループワーク (会話、発表)	
第7回	初級 1-19 : 方向		家に招待する						グループワーク (会話、発表)	
第8回	初級 1-20 : 訪問		友だちの家の訪問						グループワーク (会話、発表)	
第9回	初級 2-1 : 天気 2		天気を推測する						グループワーク (会話、発表)	
第10回	初級 2-2 : 買い物 2		買い物の場所						グループワーク (会話、発表)	
第11回	初級 2-3 : 外見		外見の描写						グループワーク (会話、発表)	
第12回	初級 2-4 : 買い物 3		食材について						グループワーク (会話、発表)	
第13回	初級 2-5 : 注文		注文する時の表現						グループワーク (会話、発表)	
第14回	復習・まとめ		スピーキングテストの練習						グループワーク (会話、発表)	
第15回	復習・まとめ		スピーキングテストの練習						グループワーク (会話、発表)	
評価 方法 及び 評価 基準	① 単語テスト (25%) ② 授業内発表 (25%) ③ スピーキングテスト (50%)									
課題等	① ワークブックは白紙に答えだけを書いて、データで提出してください。 ② 試験の形式は教科書の復習問題を参考してください。									
事前事 後学修	① 事前学修：教科書に出ている単語で単語集を作成してください。講義で発表する台本を準備してください。 ② 事後学修：韓国語の動画（映画・ドラマなど）を毎週 1 時間以上視聴してください。単語集の単語を覚えてきてください。 ③ 必要な学修時間は週に3時間以上です。									
教材 教科書 参考書	① オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級1 ISBN 979-11-85872-74-2 (データで配布) ② オンライン世宗学堂 サイバー韓国語 初級2 ISBN 979-11-85872-75-9 (データで配布)									
留意点	① 教科書とワークブックはデータで配布するので購入する必要はありませんが、紙の書籍が欲しい生徒は購入しても構いません。購入希望者は講師に連絡してください。 ② 本講義は会話中心の講義です。パートナーと話したり、発表したりすることが毎時間あります。 ③ 韓国語Bを履修せずに韓国語Dの履修は認めません。									

科目名	英語Ⅱ		科目コード	W24007	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年			
	科目ナンバリング		W-BFCB0-35		時間	60時間							
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	ウォータース・グレン・ユースタス			授業 形態	講義	単独				
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 In this course, the students will develop stronger skills to read and answer questions in English on a wide range of situations. Upon completion of the course, students will be able to confidently read, answer questions about and discuss past, present and future events												
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。												
到達 目標	English II is a dialogue-based course for beginning students of English. All lessons have modern English vocabulary; each student will have many chances to practice all four skills (listening, speaking, writing, and reading) while focusing upon how to speak authentic American English. Feedback will be provided weekly by the teacher. The students will increase their communication ability by way of active learning. Working with a partner or in a group to help them understand each other.												
授業計画													
回	主題		授業の概要		備考		回	主題		授業の概要		備考	
第1回	Course Orientation and teacher introduction		Instructor explains course objectives		pair-work, group-work and discussion		第16回	Course orientation and instructor introduction		Instructor explains course objectives			
第2回	UNIT 1 A world of difference		Students will learn to differentiate between tenses and understand negative questions.		pair-work, group-work and discussion		第17回	UNIT 7 Passions and fashions		Students will learn present perfect; simple and continuous, passive, adverbs, and time expressions.		pair-work, group-work and discussion	
第3回	UNIT 1 A world of difference		Students will learn parts of speech; meaning, spelling and pronunciation, word of formation, and words that go together.		pair-work, group-work and discussion		第18回	UNIT 7 Passions and fashions		Students will learn about spoken English and answer questions about Soccer around the world.		pair-work, group-work and discussion	
第4回	UNIT 2 The work week		Students will read about and practice present tenses: simple and continuous, stative verbs, and present passive.		pair-work, group-work and discussion		第19回	UNIT 8 No fear!		Students will understand idioms and body language.		pair-work, group-work and discussion	
第5回	UNIT 2 The work week		Students will learn positive and negative adjectives.		pair-work, group-work and discussion		第20回	UNIT 8 No fear!		Students will read about and answer questions about Dangerous trips in history.		pair-work, group-work and discussion	
第6回	UNIT 3 Good times, bad times		Students will learn Past tenses; simple continuous, past perfect, and also the usage of used to.		pair-work, group-work and discussion		第21回	UNIT 9 It depends how you look at it		Students will learn about conditionals and will be able to use them.		pair-work, group-work and discussion	
第7回	UNIT 3 Good times, bad times		Students will read about Romeo and Juliet and be able to answer the questions in the unit.		pair-work, group-work and discussion		第22回	UNIT 9 It depends how you look at it		Students will learn and be able to use words with similar meaning.		pair-work, group-work and discussion	
第8回	Review		Review quiz				第23回	Review		Review quiz			
第9回	UNIT 4 Getting it right		Students will learn modal and related verbs: advice, obligation, and permission.		pair-work, group-work and discussion		第24回	UNIT 10 All things high tech.		Students will study noun phrases; articles, prepositions, and compound nouns.		pair-work, group-work and discussion	
第10回	UNIT 4 Getting it right		Students will read about and answer questions about kids in the 1970s and now.		pair-work, group-work and discussion		第25回	UNIT 10 All things high tech.		Students will read about and discuss "21st century city".		pair-work, group-work and discussion	
第11回	UNIT 5 Our changing world		Students will learn future forms: will, going to, and future possibilities: may, might, could.		pair-work, group-work and discussion		第26回	UNIT 11 Seeing is believing.		Students will learn about past and present probability.		pair-work, group-work and discussion	
第12回	UNIT 5 Our changing world		Students will read and study Future possibilities. Expressing the future and life in 2065.		pair-work, group-work and discussion		第27回	UNIT 11 Seeing is believing.		Students will read The Adventure of Sherlock Homes and answer questions.		pair-work, group-work and discussion	
第13回	UNIT 6 What matters to me		Students will learn about informational questions.		pair-work, group-work and discussion		第28回	UNIT 12 Telling it like it is.		Students will study reported speech, reported thoughts, and reported questions.		pair-work, group-work and discussion	
第14回	UNIT 6 What matters to me		Students will learn how to use adjectives and adverbs to describe people, places and things.		pair-work, group-work and discussion		第29回	UNIT 12 Telling it like it is.		Students will read and discuss about the people who changed the world.		pair-work, group-work and discussion	
第15回	Wrap-up		Students will be able to understand the structure of English grammar and be able to communicate with each other.				第30回	Wrap-up		Students will be able to understand the structure of English grammar and be able to communicate with each other with confidence.			
評価 方法 及び 評価 基準	Class Participation: 30%; Class Activities/Homework: 30%; Final Examination: 40%. Over 60% of total is needed to pass this course.												
課題等	Homework and assignments will be announced at the end of each lesson.												
事前 事後 学修	At least 30 to 60 minutes should be spent in preparation of each class and at least 30 minutes of review for each lesson.												
教材 教科書 参考書	American Headway Level 3 Student Book w/ MultiROM (ISBN: 978-0-19-472611-5), and American Headway Level 3 Workbook (ISBN: 978-0-19-472614-6)												
留意点	Studying English as a second language is a cumulative activity. If you study English even a little bit everyday, you will enjoy this course more. Preparation, review, a positive attitude in class is important. Students will work with their partner or group to experience pair working, group discussion as active learning.												

科目名	英語Ⅱ		科目コード	W24008		単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-BFCB0-36			60時間				
区分	共通基盤科目 教職科目	選択 必修	担当者名	奥野 忠徳				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	〔授業の主旨〕 様々な場面で自然な英語表現が使えるように徹底的なトレーニングをします。 会話で必要となる文法力と語彙力を鍛える徹底的なトレーニングをします。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。										
到達 目標	場面に即した英語表現が即座に使えるようになるのを目標とします。										
<b>授 業 計 画</b>											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	introduction	この授業で行うことの導入			講義	第16回	使える文法・英語特訓 (15)	should (2)、英文の特訓 (15)			講義
第2回	使える文法・英語特訓 (1)	willとbe going to (1)、英文の特訓 (1)			講義	第17回	使える文法・英語特訓 (16)	should (3)、英文の特訓 (16)			講義
第3回	使える文法・英語特訓 (2)	willとbe going to (2)、英文の特訓 (2)			講義	第18回	使える文法・英語特訓 (17)	had betterとit's time to構文、英文の特訓 (17)			講義
第4回	使える文法・英語特訓 (3)	ifとwhen (1)、英文の特訓 (3)			講義	第19回	使える文法・英語特訓 (18)	would (1)、英文の特訓 (18)			講義
第5回	使える文法・英語特訓 (4)	ifとwhen (2)、英文の特訓 (4)			講義	第20回	使える文法・英語特訓 (19)	would (2)、英文の特訓 (19)			講義
第6回	使える文法・英語特訓 (5)	can (1)、英文の特訓 (5)			講義	第21回	使える文法・英語特訓 (20)	Can you/Could you ?, 英文の特訓 (20)			講義
第7回	使える文法・英語特訓 (6)	can (2)、英文の特訓 (6)			講義	第22回	使える文法・英語特訓 (21)	仮定法過去 (1) (If ...), 英文の特訓 (21)			講義
第8回	使える文法・英語特訓 (7)	mustとcan't (1)、英文の特訓 (7)			講義	第23回	使える文法・英語特訓 (22)	仮定法過去 (2) (I wish ...), 英文の特訓 (22)			講義
第9回	使える文法・英語特訓 (8)	mustとcan't (2)、英文の特訓 (8)			講義	第24回	使える文法・英語特訓 (23)	仮定法過去完了、英文の特訓 (23)			講義
第10回	使える文法・英語特訓 (9)	mayとmight (1)、英文の特訓 (9)			講義	第25回	使える文法・英語特訓 (24)	受動態 (1)、英文の特訓 (24)			講義
第11回	使える文法・英語特訓 (10)	mayとmight (2)、英文の特訓 (10)			講義	第26回	使える文法・英語特訓 (25)	受動態 (2)、英文の特訓 (25)			講義
第12回	使える文法・英語特訓 (11)	mustとhave to (1)、英文の特訓 (11)			講義	第27回	使える文法・英語特訓 (26)	It is said that構文、英文の特訓 (26)			講義
第13回	使える文法・英語特訓 (12)	mustとhave to (2)、英文の特訓 (12)			講義	第28回	使える文法・英語特訓 (27)	have something done構文、英文の特訓 (27)			講義
第14回	使える文法・英語特訓 (13)	must, mustn't, needn't、英文の特訓 (13)			講義	第29回	使える文法・英語特訓 (28)	間接話法 (1)、英文の特訓 (28)			講義
第15回	使える文法・英語特訓 (14)	should (1)、英文の特訓 (14)			講義	第30回	使える文法・英語特訓 (29)	間接話法 (2)、英文の特訓 (29)			講義
評価 方法 及び 評価 基準	毎週行うトレーニングの成果(60点)、期末試験(40点)で評価します。 英語での会話が即座に正しい発音でできるかどうかを重点的に評価します。										
課題等	特になし。										
事前事後 学修	事後復習は必要です。										
教材 教科書 参考書	教科書は使用しません。										
留意点	英語の徹底的なトレーニングなので、欠席はしないようにしてください。90分間一切気を抜くことはできません。										

科目名	海外研修 I		科目コード	W24034	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	1~4年	開講 学期	前期
			科目名バリエーション	W-BFCBO-37						
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 This course will prepare students for study abroad in English-speaking countries with programs sponsored by Hirosaki Gakuin University study abroad program.									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	This course is a study abroad preparation course that will prepare students for their experience abroad in English-speaking countries. Students will learn how to interact with others in English and deal with cultural differences during study abroad while understanding the differences between Western and Japanese cultures.									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	Course Orientation and Program Introduction		Instructor explains course objectives and university study abroad programs. Reading assignment about western cultures will be explained.					Group Discussions		
第2回	On the Plane		Students will learn about what to expect when traveling to their study abroad experience & practice in pairs.					Create a dialogue		
第3回	Airport Arrival Procedures		Students will learn what to expect when they arrive at the airport and practice going through customs and immigration in pairs.					Fill out customs forms		
第4回	Meeting the Host Family		Students will learn what to expect when they meet their homestay family and practice greetings in pairs.					Create a dialogue		
第5回	Living with Host Families		Students will consider how and live with the host families and discuss gifts for host families as a class.					Group Discussions		
第6回	Sharing Japanese Culture		Students will consider how and what to share about Japanese culture. They will also discuss gifts for host families as a class.					Explain a Japanese gift		
第7回	Orientation		Students will learn what to expect when they begin orientation at their study abroad university.					Cultural Portfolio Page		
第8回	Making friends		Students will discuss how to make friends at study abroad programs in pairs and groups.					Cultural Portfolio Page		
第9回	Seeking Medical Care		Students will learn how to get treatment for medical issues while studying abroad.					Cultural Portfolio Page		
第10回	Seeking Medical Care		Students will continue to learn about treatment for medical issues while studying abroad.					Cultural Portfolio Page		
第11回	Shopping		Students will discuss foreign money and shopping in foreign stores; practicing in groups.					Cultural Portfolio Page		
第12回	Airport Departure Procedures		Students will learn what to expect when departing their study abroad and practice in groups.					Cultural Portfolio Page		
第13回	Giving Presentations		Students will discuss how to give presentations in study abroad classes in groups.					Cultural Portfolio Page		
第14回	Cultural Portfolio Presentation		Students will present their cultural portfolios.					Cultural Presentation		
第15回	Review and Feedback		Students will review the lessons learned about how to prepare for study abroad.							
評価 方法 及び 評価 基準	Classroom participation: 10%; Cultural book reading assignment: 15%; Cultural Presentation (graded on content & English language accuracy using a rubric): 25%; Japanese culture version of the Cultural Portfolio (graded on content & English language accuracy using a rubric): 50%.									
課題等	Missed assignments should be submitted before the following class; the student is responsible for submitting missed assignments. Students will be asked to use their smartphones for class assignments every week.									
事前 事後 学修	Pre-class reading materials and assignments should be completed and understood before coming to class. Expected preparation time: 90 mins. per day.									
教材 教科書 参考書	<i>Go! Global-Preparing for ESL Courses Abroad</i> , Lieb (2015), Sanshusha [ISBN: 978-4-384-33448-7]. The professor will also provide handouts and materials. Students must have access to a smartphone and a computer for classroom activities.									
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit drafts and work according to the professor's requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible.									

科目名	海外研修Ⅱa (アメリカ)		科目コード	W24035	単位数	2単位	対象 学年	1~4年	開講 学期	集中
			科目ナンバリング	W-BFCB0-38	時間	30時間				
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	国際交流委員				授業 形態	実習	単独
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 This course provides students with credit for participating in study abroad programs sponsored by Hirosaki Gakuin University to approved study abroad program.									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。									
到達 目標	This course documents credits transferred from Hirosaki Gakuin University-approved Study Abroad programs in the United States or other accredited English-speaking universities. Students must successfully complete a Hirosaki Gakuin University-sponsored study abroad program to receive credit for this course.									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
The content for this course is based on the curriculum and syllabus of the study abroad program attended. Each program is unique and students must complete all parts of the program to receive credit.										
評価 方法 及び 評価 基準	Successful completion of study abroad programs will be reported by the host institute.									
課題等	Students must follow the rules of the host institute for the study abroad program.									
事前 事後 学修	Students must complete the preparation work required by the study abroad program before going to study abroad.									
教材 教科書 参考書	Textbooks will be determined by each study abroad program's staff.									
留意点	Hirosaki Gakuin University students must complete 100% of study abroad program requirements unless given an exception by the host institute due to special circumstances.									

科目名	海外研修Ⅱb(韓国)		科目コード	W24036	単位数	2単位	対象	1~4年	開講	通年	
			科目ナンバリング	W-BFCB0-39	時間	60時間	学年		学期		
区分	共通基盤科目	選択	担当者名	国際交流委員・鹿嶋愛英			授業	演習	形態	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 本科目は本学と提携を結んでいる韓国姉妹大学が提供している短期間の語学研修プログラムや交換留学プログラムに参加する本学学生が、語学研修や留学を準備するために必要な知識を学ぶクラスである。										
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 1-2, 2-2, 3-2, 4-2に関連する。										
到達目標	語学研修や留学に必要な基本知識を得て、留学中様々な場面にうまく対処できるようになる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備 考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備 考
第1回	オリエンテーション 오리엔테이션	授業内容と目的、評価方法について説明				第16回	この科目は姉妹提携大学が提供している科目であるため科目授業内容は大学によって異なる。各々のプログラムはとて特色があり興味深いものである。 全ての学生は単位を取得するために積極的な参加が必要である。				
第2回	飛行機内にて 비행기내에서	・機内で乗務員との会話、機内で発生しうることへの対処方 ・入国に必要な書類を確認、機内のアナウンスを理解する			ダイアログ作成	第17回					
第3回	入国手続き 입국수속	・入国審査、手荷物受取や税関審査など入国手続きに関する概要。ペアで入管と税関を通過する練習をする。			入国カード・税関申告書作成	第18回					
第4回	ホームステイ 홈스테이	・韓国ではNGなことOKなこと ・現地の家庭への訪問する場合がある。ペアで挨拶の練習			会話を作成	第19回					
第5回	日本文化 일본문화	・どんな文化をどのように共有するか考える。お土産についても話してみる			お土産についての説明	第20回					
第6回	交通機関 교통기관	・バス・タクシー・地下鉄などの利用に関する留意点 ・目的地までの交通の便の確認や、道に迷った時の対処方法 ・日本文化ポर्टフォリオについて説明			ポर्टフォリオページ	第21回					
第7回	語学学校でのオリエンテーション 어학학교에서 오리엔테이션	・語学研修の初めに行われるオリエンテーションについて			ポर्टフォリオページ	第22回					
第8回	電話を掛ける 전화하기	・韓国語で電話を掛ける練習、友達とコミュニケーションをとり方法についてグループでディスカッションする。			ポर्टフォリオページ	第23回					
第9回	病気 몸이 아플때	・留学期間中体調が悪くなった場合の対処方法について			ポर्टフォリオページ	第24回					
第10回	プレゼンテーション 프레젠테이션	・留学先でプレゼンテーションする課題が与えられる場合がある ・これについてグループでディスカッションする			ポर्टフォリオページ	第25回					
第11回	買い物 쇼핑	・韓国の貨幣とショッピングについて習い、グループで練習する			ポर्टフォリオページ	第26回					
第12回	出発手続き 출국수속	出国手続きに必要な表現を習い、グループで練習する			ポर्टフォリオページ	第27回					
第13回	e-メール 메일 보내기	・帰国後、友達やホストファミリーと連絡を取り合うことについて話してみる			ポर्टフォリオページ	第28回					
第14回	文化ポर्टフォリオ 문화 포트폴리오	文化ポर्टフォリオをプレゼンする			プレゼン	第29回					
第15回	レビューとフィードバック 리뷰와 피드백	海外研修の事前授業で学習した内容をレビューする				第30回					
評価方法及び評価基準	授業への参加(25%) プレゼンテーション(50%) 課題(25%)										
課題等	課題は提出日の授業が始まる前に提出する。フィードバックは次回の授業中にする										
事前事後学修	講義において理解した内容を整理する。予習復習のため一日1時間を費やす。										
教材教科書参考書	・海外研修のための資料集、・教科書は使用しない、ハンドアウトは毎回講師が配布する。										
留意点	講義に必ず出席、講義内容に関する質問を奨励。メールアドレス:kashima2011@hotmail.co.jp										